めぐみの家

第拾壹卷
第五號

大正三年五月一日發行　大正三年四月二十八日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

要目

女子青年界第十一巻第五號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XI　　May, 1914　　Number 5.

Y. MATSUURA

Silk & Cotton Goods Store.

Manufacturer of Calico Printed Goods.

Wholesale and Retail Manufacturer of and Dealer in Embroideries.

D wnWork. Silk.

Linen & Cotton Goods.

Our Work All in Up-To-Date Stye.

No. 8, Honcho. Itchome, Yokohama

Tel. No. 3041.

横濱市本町一丁目八番地

絹、木綿、麻刺繍、ドロンウォーク品類

製造、卸並ニ小賣

松浦商店

キャラコ地堅牢捺染卓子掛ナフキン一式

松浦商店捺染部

電話三〇四一番

T. NAKAYAMA,

IVORY CARVER, SILVER SMITH

DEALER IN

All Sorts of Bamboo Sticks, Wooden Works & Japanese Curios

MAIN SHOP: No. 27, BENTENDORI, NICHOME, YOKOKAMA.

TELEPHONE NO. 1886

BRANCH SHOP: No. 47, MOTOKAGOMACHI NAGASAKI.

美術品並ニ雑貨
直輸出卸小賣商

中山商店

横濱市辨天通貳丁目貳拾七番地

電話千八百八十六番

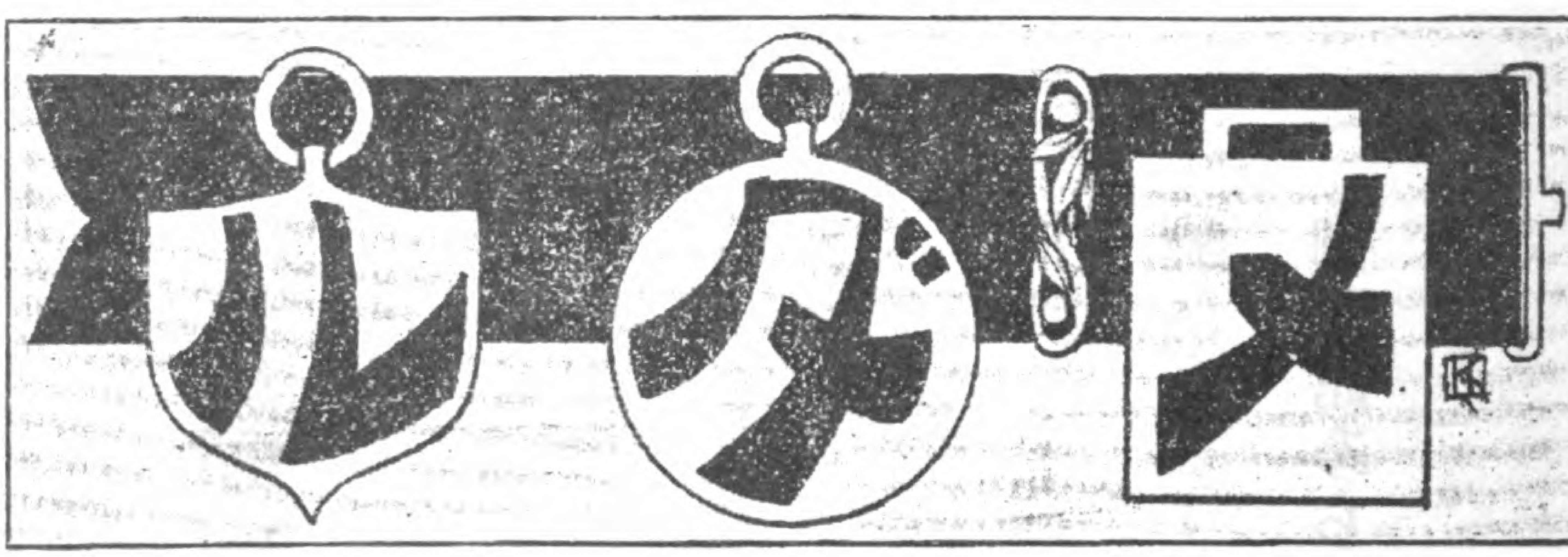
支店　長崎市本籠町四十七番地



生活難や出世難の高き今日T君やK君はどん〳〵先輩を切り拔いて出世したも其筈現時大好評の子爵山岡直記閣下を會長とする英和簿記講習錄に就て僅か三ヶ月で簿記全科を卒業して立派な事業家となつたのである此講習錄は商業、會社、銀行、工業、官廳、家計、英文簿記の七科目に分れて各科共專門大家の講述で教授法は親切丁寧何人にても直ちに上達特に實際的活用的仕組まれてあり會員には機關雜誌『簿記の友』

成功の秘訣はこれだ

を無代で添呈し之れに依りて商事要項、及英語會話、文案等實務上の新智識をも併せて修得する事が出來立身出世の近道と云ので益々大高評今は第三回新學期開講で內容は各科改版してあり此際入會者には奬學資金の提供其他十大特典が設けられてある卒業生は就職紹介の辨を與ふる故に此最好機を利用して活社會に生まれよ詳細は東京市芝區櫻田太左衛門町大日本通信學院へ「はがき」をだして會則及見本を見よ無代進呈



メダル

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し獻身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を贊助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍の設備有將來他都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　每年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

日本基督教女子青年會中央委員

委員長　井深花子
副委員長　見惠子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子(東京)　エ、ピ、ウエスト(東京)
鈴木歌子(東京)　小此木松子(東京)
長谷川喜多子(東京)　サラ、エリス(東京)
山田千代子(橫濱)　イ、クレメント(東京)
廣岡淺子(大阪)　エム、エフ、デントン(京都)
ケー、トリストラム(大阪)　エス、ソール(神戶)
佐伯小糸(京都)　上代淑子(岡山)
松田道子(京都)

幹事

總幹事(本部)　河井道子
同(同)　エ、シー、マグドナルド
書記(同)　アール、レーガン
總幹事(東京)　エム、エル、マシウ
幹事(同)　シー、アール、ワトネ
特志幹事(同)　エム、ペーチ
幹事(橫濱)　久野ひさ子

本部位置

日本基督教女子青年會本部　東京市牛込區田町三ノ十二

支部及寄宿舍位置

東京基督教女子青年會　東京麴町三番町四一
廣島女學校青年會　廣島市上流川町
同志社女學校青年會　京都上京今出川通
プール女學校青年會　大阪西區川口町一二
ウキルミナ女學校青年會　大阪東區玉造
札幌女子青年會　札幌北四條北星女學校内
宮城女學校青年會　仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會　宇都宮二條町二三
フエリス女學校青年會　橫濱山手町一七八
共立女學校青年會　橫濱山手町二一二
女子英學塾青年會　東京麴町區五番町一六
女子學院青年會　東京麴町上二番町三三
青山女學院青年會　東京青山南七ノ町一
青山女子手藝學校青年會　東京青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會　東京小石川指ケ谷町八四
神戶女學院青年會　神戶市山本通四丁目
金城女學校青年會　名古屋東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會　盛岡内丸タピング方
德島女子青年會　德島富田浦仲町ミスリッソン方
橫濱女子青年會　橫濱市本町五一

第一寄宿舍　東京市牛込區納戶町四五
第二寄宿舍　東京小石川水道町(安藤坂)
外國婦人宿泊所　東京市赤坂區檜町(乃木坂)

女子青年界　第十一巻第五號（大正三年五月一日發行）

會説

皇太后陛下

皇太后陛下　御不例の報傳はりてより、億兆深く憂愁に沈みしも、一時御快方の御模様を拜承して、僅に愁眉を披きたるに、何ぞ圖らん、御急變あらせられ、終に上天ましまさんとは。嗚呼哀哉。

惟ふに、皇太后陛下は、眞に日本婦人としての理想的德性を御具備し給ひ溫良恭順、貞淑謙讓、能く先帝に奉事し給ひしこと四十餘年、朝に夕に、只管御內助に終始あらせ給ひ、以て我國空前の盛宏を見るの今日あるに至らし

め給ひしは、衆庶一同の念として忘る能はざる所。殊に　皇太后陛下は博覽富藻、愛恤仁慈にましまし、常に御修養を積ませ給ふと共に、臣民を慈ませ給ひ、教育に、慈善に、陛下の御恩澤の及ぶこと普く、其の臣民を懷ひ給ふの深き、慈母の赤子に於けるが如く、筆にも紙にも盡すべきにあらず。されば、億兆の臣民が常に愛慕尊崇の中心として　陛下に對し敬仰措く能はざる亦當に然るべき所以なりとす。

然るに　陛下、今や、先帝の蹤を追ふて、空しく神去り給ひぬ。誠に恐懼、且、何とも申上やうもなき次第にして　皇室の御悲歎は御察し申すも畏し、我等臣民亦何の辭を以て奉弔の誠意致すべきかを知らず。嗚呼哀哉。

茲に至情の一端を表し、上　皇室より下臣民の上に天の慰籍祐助の裕ならん事を祈る。

皇太后陛下の御事

皇太后陛下が貞淑仁慈溫順勤儉等のあらゆる美德を備へさせ給ふて、我が國歩難艱にして動もすれば皇室の尊嚴をさへ保つ能はざらんとせし時代より、先帝陛下を御內助あらせられ、終に我國今日の隆運を開拓し給ひたる御功績、殊に國母陛下として臣民を愛撫し給ふこと深く仁恤の御恩情は、或は赤十字事業に、或は軍人救護

に、或は各種の教育上に、或は諸般の慈善濟民事業に、或は天災被害に際し、事に觸れ、時に臨んで、顯著歷然たるものあるは、今更ら擧げて拜記するまでにも及ぶまじく、國民一般に感銘して措かざる所なれども、今や　陛下神去り給ひし悲しき日に、我等婦女子として、特に陛下を敬慕追念し奉るべき御事共の一二を拜記するも亦所以なきことにはあらじ。

陛下と女子教育

陛下は教育殊に婦女子の教育に就ては御心をとめさせ給ふこと厚く、我國女子の智德を進めん事に御心を注がせ給ひたる事は、我等婦女子に取りては格別に感謝して忘るゝ能はざる事共なり。

陛下が高等女子師範學校創始以來、屢御臨啓を賜ひ、常に御奬勵を垂れさせ給ひ、又た、今の學習院女子部が華族女學校と稱したりし時代より、同じく御輦を枉げさせ給ひし事一再ならず、其上に、其學習院女子部と改組織せし際には、畏くも「益學藝を勵み婦德を修めて女子の本分を完ふせん事を努めよ」との御令旨を賜ひ常に其教育を御監督御奬勵遊ばされたるは、單に同女子部に對しての御事に止らず、普ねく全國の女子教育に對して、其大方針を示し、且御督勵遊ばされたるものと見るべきや言ふ迄もなし。又た、誰も知る如く「金剛石」「水は器」の御歌を下されし如き、當に全國に渉りて各女學校教育の大精神となれるものにして、畏しこくもまた難有次第といはざるべからず。

由來、我國に於ては舊幕時代より家庭外に於て女子を教育する事は絕へて行はれず、從て智識德性の發達に遲れ、自然に因循固息にのみ陷りたる風なりしを、　陛下が夙に厚き御恩召を以て明治の初年より婦人の拓識修德に御誘掖御指導あらせられ、我國前古に比類を見ざるの女

子教育の發展を促進せしめ給ひ、眞に本邦婦人の新しき時代を作らせ給ひ、現に我等現代の女子は其御恩惠に浴したるものにして、陛下に對しては格別に御追念申上げ、感泣を禁じ能ざると共に、益奮發して御聖旨の萬一をも空ふせざらんことを以て任ずべく思ふなり。

陛下と御歌

思ふに、婦人の高尚なる嗜として文學に優るべきものやあらん。我が皇太后陛下には御若く入らせられたる時より文學の御嗜深く且つ秀でさせ給ひ、先帝陛下が御歌道に御熱心にあらせられしにも由るべけれども、陛下にも亦斯道に於ける御天禀の御才、非凡にましまし、眞に御堪能に在らせられ、其御着想といひ、其御調といひ、到底通常歌人の企及すべからざる御長所を有し給ひ、歴代の皇后中、其の比を見ざる程の澤山の御歌ありしといへり。

殊に其御歌に依て拜察すれば、萬事に深き御注意を拂はせられ、行屆きたる御觀察の跡歴々として驚歎を禁ずる能はざるものあり。四季折々の御感、禽獸草木の事、津々浦々の民草の生活狀態など細微の點に至るまでも、能く御洞察の行き屆けるは、畏くも亦恐懼に堪へざる次第なり。

其のみならず、陛下の御歌は單に風流の御事とのみいふべからずして彼の誰人も知る『金剛石』『水は器』の御歌はいふも更なり、其の他教育上の方針とし、また處世の要訣とし、人格修養の栞とし、萬世不易の御教訓とし感ずべく銘すべき三十一文字の、拜讀欽誦すべきもの誠に少なからず、實に陛下の御歌を拜しては、誰かは陛下御人格の尊さと御徳性の高さとを仰ぎ奉らざるべき。

今、陛下の御歌「十二德」を拜記して、御高風の一端を知り併せて我が修德の栞ともせん。

節制

花の春　紅葉の秋の杯も
程々にこそくまゝほしけれ

清潔

白妙のころもの塵ははらへとも
うきは心のくもりなりけり

勤勞

磨かずばたまも光はいてさらむ
ひとの心もかくそあるへき

沈默

過たるは及ばざりけりかりそめの
言葉もあたにもらささらなむ

確志

人心かくそあるへきしら玉の
眞玉は火にもやかれさりけり

誠實

とり〳〵につくる簪のはなよりも
にほふこゝろの誠をそおもふ

溫和

みたるへきをりにはなきて花櫻
まづ笑むほとをならひてしかな

謙遜

高嶺をもそこにうつして山みつの
ひきゝに行くをこゝろともかな

順序

奥深き道にもいらん物事の
はしめ終りのみたれさりせば

節儉

くれ竹のほとよき節を違へすは
末葉のつゆもみたれさらまし

寧靜

事にふれ身はいかさまに下れとも
心はゆたになすよしもかな

公義

萬民すくはむ道も近きより
おして遠きにゆくよしもかな

旅行先

河井道子

都會の大停車場の光景が與へる印象は此の黑山の如き群衆が何處へ行くのでせう、何の用事があつて斯く往來繁く汽車に吸込まれ吐出されるのでせうとの不審で御座います、新橋等では一日に五萬圓の收入高とか聞きましたがこれを見ても何れほど人が旅行するかが想像されます、それで旅行者一人〳〵を止めて『何處へ行き何の御用事を』と尋ねて見たらば皆確然で目的と確定た場所とを申すでありませう若し目的無くたゞ汽車に乘つて見るとすればこれは普通の者でなく狂人が逃亡者が無意識の子供等でありませう。

明治初代に始めて汽車が東京、横濱間に通ずる樣になりました其折、如何にも珍らしいので人々は好奇心に驅られ用事は無くとも乘て見たいといふ事で御座いました、當時横濱の某店に小僧があつて主人が親切に申しますのに『お前の家は東京だが此度汽車と言ふ珍らしい車が出來たから一度それに乘つて行つたらよからう』とて暇を呉れました、小僧は大喜びで店を出て夕方歸つて參りました、主人は歸りを迎へて親元の樣子を尋ますと小僧がいふに『私は家へは參りませんでした』『それなら汽車に乘らなかつたのかい』『否汽車には乘りました』『それぢや何處へ行つたのかい』『何處へも參りません』『何をして居つたのだい』『何も致しません』『一體お前はどうしたのだ』と尋ねますと汽車が如何にも珍らしく面白かりし爲横濱より東京に行き直に東京より横濱に引返し、又東京に行き横濱に歸り、小遣錢の有る限り乘り續けたとの事でありました、併しかゝる呑氣な考

で旅行する者は今日は一人も御座いません、皆我先にと汽車に入込み我勝にと汽車を出で目的の所に走り着くのが普通の狀態で御座います、若し目的なしの旅行であつたなら如何に風景明媚の場所を通りましても辨當の中には山海の珍味がありましても茫然として心に不安の念が湧きかへる事でありませう。

昨年の末より當女子青年會は『旅行者の友』とて旅行者の保護便宜を圖る事業を起しましたが、其の係の者が毎月本誌上に其摸様を掲載致します故讀者は此事を御承知の事と思ひます、此の係の者二名は毎日停車場に於て様々の人々を助け殊に家出をした者、或は誘惑に陷る様な婦人を見付て、夫れ〳〵救濟をして居ります、彼等の申しますのに是等の逃亡した婦人は群衆の中でも見別がつく、その譯は何となく意氣沮喪し茫然と氣迷ひした如く四方を見廻したり呆氣に取られたり、同じ場所を度々往來したり様々の擧動にて、此は行先の確かならざる者との鑑定がつくと申します、先づ此者は扶助の必要な者と認めますと、側により何處にお出でですかと尋ねますと、始めの程は色々胡魔化を申しますが、終に萎れて何處か泊る處は無いかしらとか、今晩だけ世話して呉れる家は無いかとか、誰か迎いに出る筈だつたが來て居ないどうしたらよいかしらとか、如何にも頼りない悲しそうな事を聞くのが普通で御座います。又此種類の旅行者も數少い事で本當の旅行者ならば行先が判然して居るのは當前の事であります。

人生は大旅行で御座います、我々は旅行者であり何處にか目的地があつて皆急いで彼地に達せんとして居ります、然るに各自にあなたは何處に入らつしやるのですか、如何なる御目的を持つての人生ですかと尋ねたら、適當な正確な返事を致す者が幾人御座いませう、大概の返事は何そんな事惱い、行ける處まで行つて見るさ、それから又何にかなるだらう今日を樂みに飲めよ食へよ、死其ものは人生の終りさ、其先は無だとか戯談半分の旅行をして居ります或は又輪回法とでも申しませうか、死しては此世に

生れ、生れては死し殆ど生れんが爲に死し、死せんが爲に生れる如き無意味なる事を意味有りげに持囃して居る人も多數御座います、是は京濱間を目的なしに乗續けた小僧と少しもかはらない様な人生觀であります、中には又行先は如何なるだらう、何處に達し何處に宿り何處に平安を求め得るものかしらと不安の念に滿され、生れ乍ら死者に異ならず、日々左顧右眄小心翼々として此の世を渡りつゝある者が嘸多い事でせう、神の目からは此等は皆狂人、逃亡者、赤兒が危險な一人旅をしてゐる様なもので御座いませう、斯る場合に基督者は他の人と如何に異なつた旅行をして居りませうか？　多數は口にこそ立派な希望のある如き返事をしましても、其の心中目的なし行先の解らぬ人生を歩んで居る者が是又多い事と思はれます、然しながら眞の基督教者は何の爲の旅行と問はれし時に確たる返事を持つて居り、又持つて居べきであります、我等此世に於て賓旅又寄寓者で永遠の住家なる神の國を目懸けての旅行で御座います。勿論人生は旅行といふ事は誰しも申すので御座いますが、其先の到着地、落着所はと申しますと如何にも返事に行惱んで居ります。

昨今我々は皇太后陛下御崩御を初として友人知人或は家庭の中に多くの訃音に接します、國民全體も個人も、斯る時に深く我等の行先は何れであるかといふ事を眞面目に考へ學ぶべき好機會を與へられて居ります、成る程此世限りつき當りばつたり死を以て萬事終れりとします生涯なら、實に飲食するに如く事はありません、私慾情慾を恣にし可成多くの幸を一身に集め他人の苦痛、家庭の紊亂、教育界の醜態、社會の腐敗等何も氣に掛けず大鼾して寢て居るが一番で御座いませう、未來との觀念、行先の定まらざる其生涯は我利に滿され悖徳に陥り賄賂問題等を惹起すは當前の徑路で御座います。眞の神を敬畏る事なく却て人の目前を恐れ、靈魂の事など露念頭に措かずして衣食住にのみ齷齪し、永遠を思惟ず只々目の前の利慾にのみ腐心する者が、政治界に立

てば野心家になり、宗教界ならば僞善者、教育界には僞君子、實業家となれば利慾家、夫婦は破廉恥、女は虛榮、小供は虛吐となるのは當然の事でありますまいか。かく思ひますと神なき生活は目的なき旅行で實に寒心せずに居られません、然れば私共は神様を目當として神の國へと旅行して居るのであるとは云へ、決して此世を浮世とて果敢無み一日も早く彼世に行かんと欲する厭世主義を鼓吹するのではありません、厭世家は我等かキリストに依りて約束を受けし父の住居には決して這入る事は出來ません、勵みて天國に入らんと欲ふ者は現世を純潔ならしめ改善せんために世に存在て努力なければなりません凡ての艱難辛苦も我等を練磨し給ふ神の恩惠として感謝して拜受すべき事を常に敎へられて居ります、茲に眞の活動が起る理由で御座います、空想、怠惰、不熱心、無頓着は天國への旅行者に大禁物になつて居ります、是は恰も大學入門志願者は豫備に於て最も勉强しなければならぬと同樣で御座います、今聖書中の詩人が神の敎に入る者に對して如何なる條件を告げしかを紹介いたします。

「エホバの山にのぼるべき者は誰ぞ、その聖所に立つべき者は誰ぞ手きよく心いさぎよき者、其靈虛きことを仰ぎのぞまず僞の誓をせざる者ぞ其人なる、かゝる人は舌を以てそしらず、其友を害はず、又其隣をはぢしむる言をあげもちゐず、惡に沈める者をいとひ、エホバを畏る者をたふとび、誓ひしことは己に禍害となるも變ることなし、貨をかして利をむさぼらず賄賂を入て無辜を害はざるなり」

以上の試驗に及第せずして、永久に神の宮にすむ事は出來ません。此試驗に時々刻々及第しつゝある者は生死共に美事になり我生るはキリストの爲また死るも我益なりと斷言が出來て參ります、如斯き生涯は愉快でたとひ、病身でも、貧乏でも下級でも活動的になるのは至當の事で御座いますまいか、到着地の定まつた旅は樂しいではありませんか、勿論我々神を信じてゐる者でも往々前途に雲霧深く風雨に遭遇ますと疑惑に陷り道を失ふこともあります、又小羊の樣に別に故意と牧者から離れる積ではなくとも此處の靑草、彼方の小川と勝手次第の獨立獨步を實行

して道に迷ひ、夜は來る、四方に狼の聲が起る、山は高く谷は深く、岩石荊棘四肢を傷る時、愕然牧者をはなれし大罪に苦悶する場合も往々あります。山中に道を失ふ、汽車が軌道を外す、何れも危險千萬で御座います、成程『我等を正しき道に返戻し給へ』との祈が聖書に繰返されてある筈で御座います何卒御互に、死と云ふ大問題を眞面目に思考し行先は何處なりや、禍害の來らぬ前、年老ひざる中、病氣の音れぬ間に之を確め『道なり眞なり生命なり』と宣し救主に從て、神の賜ふ屋、即ち天にありて手にて造ざる窮なく有ところの屋に入り聖徒と共に神の前にて永遠の榮に與からふではありませんか。

姉妹等よ、鄉等の旅行先は何處なりや。

いざや友よ　　いさみすゝめ
寶座をめぐりて　　しらべいとたかく
あまくかみを　　たゝへまつらん
イマヌエルの　　みちをふみて
たへなるさかえの　　天つ世にいらなん
いさみうたへ　　をどりすゝめ
シオンの山の　　てりかゞやく城
たのしきみやこへ　　われらすゝみゆく

信仰生活のしをり（二）

榮松　譯

第一、祈禱

いのりを五つに分つ、

（イ）自省せし後の罪の告白。（ロ）感謝。（ハ）讃美（ニ）嘆願。（ホ）代禱。

（イ）罪の告白　我等にして、あやまち無き者はなし。我等は、自らを卑うして、十字架にかゝり玉ひし、主イエスに、全き自由なる赦ある事を信じ、キリストを仰ぎ見つゝ、我等の罪を、告白せざる可らず。我等が、互に赦すはかりに從ひて、主は我等を赦し玉ふなり。

ペテロ、イエスに來りて、いひけるは、主よ、幾度、我兄弟に、罪を犯すを赦すべきか、七次までか。イエス、彼に曰ひけるは、爾に七次とはいは

じ、七次を七十倍せよ。（聖マタイ十三）

もし、一日に七次罪を犯して、一日に七次なんぢらに向ひ、われ悔といはゞ、赦すべし。（聖ルカ十七）

人の心の、僞多き、之を量るに堪えず、人々が爲す所、我も之をなすは、止むを得ざるなりとなし了りて、神の命じ玉ふことを、爲さざるは、我等自ら驚くに堪ゆ。

なんぢらのうち、誰一人、罪のあざむきによりて剛腹にならざるやう、今日ととなふるうちに、相すゝめよ。（ヘブライ書三）

かく日毎に懺悔し、我等の罪を、見神の前に之を認め、神は、キリストの爲に、眞實我等を赦し玉ふてふ、全き信を以て、神の赦を乞ふ可きなり。

（ロ）感謝　われらの多くは、我等が受くる祝福を體得せざるが故に、不幸なるなり。我等は何物かを願ひつゝ、而も、應驗が靜かに、一日或は二日の後に來る時は、既に之を願ひし事をわすれ居るなり。（使徒行傳第十二章第十二節より第十六節）

我とわが身を不幸にし、又周圍に居る者を、不幸にする、かの、暗く病的なるおもひは、感謝の念を度外にするより、生ずるなり。

なんぢらの、爲すところの、すべての事、或はことば、或は行、みな、主イエスの爲に、之をなし彼に由て、父なる神に感謝すべし。（コロサイ書三ノ一七）

（ハ）讃美　たゞ神の與ふるものに對してのみならず神が神たるが故に、讃美すべし。即ち、神の全能、神の神聖等に、感謝すべし。古代の聖徒は、讃美を愛すること、いと深かりき。是れ實に、日毎に神にさゝぐべきものなり。見よ、教會の祈禱文の、如何讃美の精神に富めるかを。祈禱の要なきに至る時は來るべし、されど、なほ、神を讃美するは、とこしへに絶へざる可し。

されば讃美せよ、よし、そのことばの、たゞ「父と子と聖靈に榮光あれ、始にあり今あり世々かぎり

なくあるなり」の語なりとも、我等は讃美すべきなり。

（二）願ひ　我等は、うちとけたる、ものおぢせぬ心地もて、恰も、親に願ふが如く、神にねがふべし而も、聖父の、肉の父にまさる、幾倍ぞや、幾十倍ぞや。日曜學校生徒、或は、年いと若き信者の、神にねがふ、小さき事の、他の人々には、取るに足らず思はるゝとも、神は、しか思し召さゞるなり。たとへば、ある惡しき習慣に打克たんため、小さき試煉に、忍びて堪え得ん爲、わが心地爽やかならずして、物云ひかぬる等などに、人々を樂しませんと努めん爲、みたすけを乞ひまつらば、かゝる折にも、神は、祈りの折、聖餐の時と同じく、我等に、おもひと、言葉とを、與へ玉ふ可し。

教會の事、國家の事、これらみな、至大重要に、思はるれども、神の聖前には、日毎の糧を乞ひまつる、稚兒のねがひと、大小高下を分たざるなり。神は、聖餐の時、人々の爲に願ふ、聖職の祈禱と變らず、われらの一言一語をも聽し召し玉ふなり。

我等は、稚兒が、母に向へるごとくに、神に語り奉る可し。僅に「わが神よ、これわが憂なり、われは如何にすべきかを知らず」とのみの外、云ひ得ずともよし、ありのまゝを、神に告げまつるべきなり不肖なればとて、我が子が、おのれを隱すは、地上の父も、之を悦ばず、父は、其子がおのが膝によりて、その小さきわづらひを、殘りなくいふを、よろこぶなり。天上の父には、更にも、たよりまつるべきにはあらずや。

（ホ）代禱　こは他人の爲に、代りて、神に語るなり。即ち、兩親、兄弟姉妹、僕婢、友人、聖職、キリストの、全教會のために、祈ることなり。

祈につきて

第一、天には父なる神ましします。苛立ち玉ふこと更になく、善きものを、いつにても、其子に與へ得又與へんことを、常に欲し玉ふ父。あはれこの思ひの、如何ばかり、我等を助くることよ。

第二、天には子なる神まします、彼は我等の兄なり。『すべてのことに於て、兄弟となり』とヘブライ書にも見えたり、げにも、子なる神は、我等の兄なり、我等は彼の中に、人間の情を見るなり。折ふし我等が、全く疲れ果てゝ『イエスキリストによりて』とのみより、他に、何事をも、なし得ぬ時にも、彼は、動なき、あるがまゝの、我等の手をとりて、我等を、聖父へ伴ひゆき、キリスト御自らの、義の聖衣もて、我等の、怠りをも、無智をも、ことごとく蔽ひ玉ふなり。

第三、祈る時、我等を助けん爲に、我等の中には聖靈の神まします。

『聖靈も亦、我等の荏弱を助く、我儕は、祈るべき所を知らざれども、聖靈みづから、言がたきの、慨歎を以て、我儕の爲に、祈りぬ』（ロマ書八の二六）

我等が、神の聖前に、いと力なく疲れ、恥ぢてひれ伏す時、聖靈は、我等のうちに、おもひと、ことばとをたまふなり。我等は、父と子と、聖靈の名に於て、洗禮されたるなり。

以上のおもひは、すべての祈を始むるにあたりて我等の助けとなる可し。即ち、我は、我に内在せる活ける人格（聖靈）により、活ける人格（聖子）を通して、活ける人格（聖父）に語るなり。

我等は、また、祈るとき、我は誰に語らんとするか、我は何を爲さんとするか、何を願はんとするか何を感謝せんとするなるかを、おもふ可し。

『我この愁訴を御前にならべ』（傳道書五の二）

『なんぢ神の前にありては、輕々しく口を開くなかれ、心を攝めて、妄に言を出すなかれ』（ヨブ紀二三の四）

『眞の拜する者、靈と眞を以て、父を拜する時、來らん、今、その時になれり、夫れ、父は、かくの如く拜する者を、要めたまふ。神は靈なれば、拜する者も、また、靈と眞を以て、之を拜すべき也』

（聖書ヨハネ四）

ひざまづくや否や、何等の慮なくして、直ちに祈るが如きことを、なすべからず。まづ、恭しく神の前に立ち、おのが思をととのへ、跪く前に、自らおもふ可し『神はいます、我等を、みそなはし、我を知り、我を愛し玉ふ、父と子と聖靈の神は』と。祈る時間の、僅々三分なりとせんに、その一分は『神はいます、熱心に求むる者に、報ひ玉ふ、神はいます』ことを、まづ、實感せん爲に、用ふ可きなり。然して、祈りし後、僅一分に過ぎずとも、再びとゞまりて、前の如く恭しく、神の前に立ちて、神に願ひし所のものを、心におもひ『主よ、我は信ず、我が不信なるを助け玉へ』『父よ、我に聽き玉ひしことを、感謝し奉る、イエスキリストの、聖名によれる、祈を、聽し召し玉ふを、われ知ればなり』といひ、或は、心しづかに感謝して、信經を唱へ、又は單に『父と、子と、聖靈に、榮光あれ、始にあり、今あり、世々かぎりなくあるなり』とのみにても可なるべし。

シカゴ行

在米　加藤高子

十月十七日。ミス、メレルとミス、レノクスとに伴はれて、今回シカゴ市に開催されし米國中央部女子青年會教役者總會に出席して、今旅舘で、この手紙を書いて居ります。會は直ぐ隣りのホテルで開かれました。シカゴは本當に大きな町で御座いますのね此シカゴに來て初めて米國らしい氣が致しました。今部屋で手紙を認めて居るのに、室外に轟いて居る市中のゴー〳〵云ふ音が、實際此の世の中でない樣で御座います。

今朝十時頃此のホテルに就きましたが、ステーションから自働車で來ました。これも始めての經驗ですの、東京なら人力車ですのに。途中で大きな橋が上げられるので、二三分間止つてましたが、橋が上る否や、數臺の自働車は何故急ぐのか知りませんが大急ぎで走りました、私の乘つて居つたのも其中の

一つでした。空は勿論私が仰向にならなければ見えません、上は汽車電車、通りは人の黒山と自働車、馬車、私は天の上に居るのか、地の上に居るのか、將た地の底に居るのか、まるで何處に居るのか分かりません、唯運轉手に信頼して氣をもまずに旅館に參りました、ミシガン湖に面した處で、廣い通りの景色の少しよい、人間世界らしい氣のする處で御座います。此所へ來て見るとミルオキーの美しい事が了解ります。私の部屋は十八階にあります。私は如何しても人間世界と思はれません。

日中でも電氣の燈の點じてある中で煙に包まれて機械の種々の音を聞く不思議の國と考へられます。今晩八時から又集會がありますが、こんなでは其後に寢に就かれるか否か、これが心配な位です、部屋は寢室ともう一間で大きな椅子が三脚に長椅子にテーブルが二つあります、大きな鏡のついた箱の樣な飾りもの丶樣なものは、疊寢臺とかで、晩には其鏡が寢臺になりますそうですから樂しみにして待つてます。多分私が寢るでせうと思ひます。不思議な市の不思議な部屋の不思議な寢床に寢るのも不思議な事で、多分不思議な夢を見る事でせうが、之れも亦一興と存じます。

今日の集會の模樣と所感を申ませう。初め三十分間の信仰修養會で次に米國女子青年會々長ミス、ダッヂの挨拶がありましたが其お言葉にて如何にも力强く活氣の滿ちた澤山の經驗を積まれた大きな人物と感じました、其方が優しい愛に滿ちた眞心の言葉を吐かれましたので人々は自然に欣境に導かれてミス、ダッヂの御話に引付られて大元氣がつきましたそれから私をお伴れ下さいました、ミス、レノクスは一部を代表して歡迎の辭を述べられました。私は私の家の方がなさるのですから一生懸命になつて居ました。十一時三十分から種々の協議となり、少々六ケ敷く、言葉の早いのと、色々で、惜しい事に全體が明確にわかりませんでしたが可成解りました。後にミス、ダッヂに紹介されました。實に立派な御

貌をなさつてますのね。優い力とも云ふべきものと感じました。閉會となつて昇降機を下りて出掛ましたら或方が私を捕へて何處から來たかと云はれましたからミルオキーと返答しました。其方は私はミス河井を知つて居る、貴女はミス河井から來たのだと獨りできめ込んで一人合點で大喜びで居られました私は誰方が一向解りません。年增の方でした。ミスメリルは私が見えないので不思議な心配さうな貌をして二三歩行かれたのにまた引戻つて來て下さいました。私は彼の方がまあ河井先生を知つて居ると仰いましたので嬉しく又懐しう御座いましたが、出し拔けには吃驚致しましたの、嬉しい驚きでしたが私をつかまへた方の御名は到頭存じません、これは餘興的喜劇の一つ。

　市街を歩いて料理屋の大きな靜かな食堂で晝食を致しました。鳥、ライスカレーの御馳走、何でも堪らなく大きいのに目をきよろ〳〵させて見まはしてばかり居ました。此の大きな店を支配する人はどんな人かと思ひました、如何うして處置するのかしらと、そればかり氣になつて、いらぬ心配をして驚いてました。

　午後の集會は二時から四時半迄。私は可なり疲れましたが色々と立派な事業の報告を伺ひました。日記にとめて大切にする事がありました。

　司會者も話す人も時間を嚴守せられるので、てきぱき面白く行きました、集會を見て此の春の東京の男女青年會合併の集會の節の時間の不規律なりしを思ひ起しました。私はよく聞える様に前から二番に居りました。

　今窓を覗きましたら電氣燈の美しさ、ミルオキーではとても見られません。

　今は夜の集會が終つてホテルに來ました。ミス、メリルは机で何か書き物、ミス、レノクスは椅子で爪の御掃除。ヤアー先程の鏡が床に變化ました、これから寢みませう。扨て今夜始めてホテルで食事を致しました、私はワトネさんから戴いた上衣を着ま

した。眞白き部屋で窓には靑ききぢと薔薇の花の飾り、私は驚いて居れば、一人〳〵私の貌を見るのですもの、おかしくて吹出したい位でした。御馳走は七面鳥、私がお芋が好きだとて薩摩芋と靑豆櫻の果の露の凍らしたもの皆結構でした。皆さんが私が喜んで居るのを面白がつて居られますの。

　十月十八日。亞米利加のホテルの一夜が明けました。寒くて〳〵堪りません。毛布が二枚でしたので一つの枕を足の方に載せて寢ましたら、今朝になつて見付られて大笑を致しました。今朝の食事をすませて來ました。朝だけは皆が大急ぎの様子。私共について居る給仕は實際野呂間でおかしう御座いました。やはり頭を使はなければ駄目なのは何處でも同じ事ですね。

　今朝はミス、ダッチの御話があります。ミス、メリルとミス、レノクスは今夜六時の汽車で御歸宅、私はミルオーキ青年會幹事のミス、マクエロリーと御一緒に大學に參り一泊し、大學内にて催される明日曜の禮拜に出席致します。家の方々に離れるのが少々恐い様に思はれます。明日曜日午後五時の汽車で市外の津田先生の御友達の御家に一人で參ります一向存じ上ませんが丁寧な御手紙をミス、メリルと私に下さいました。一泊して月曜日の朝、津田先生の御出になるのを待ちます譯なのです。四日間とも別の處で休みます。今日午後からはミス、マクエロリーの御手に入り、日曜日夜は津田先生の御友達の御家です、何と申してよいかわからぬ程皆様に御世話になつて居ります、昨夜では集會に列した人がもう四人で三百人になるとて幹事の方々は大喜びでした、會の終る度に人數を報告せられます。大變よい事と思ひました。

　十月十九日。日曜日。雨の音を聽きながら昨日の事を書きます處です。扨午前の集會にてミス、ダッチの中央委員の責任に付御話がありました。大きな方がやさしい御聲で私共は皆様の婢だと發言せらるゝのには實に堪りません、謙遜な且力のある事、人

格が人を動かすとは此の事と存じます。祈の精神に就いて忍耐の必要、それから自分は財政部に非常に歡喜を持つて居ると申されました。人の嫌る處を立派な頭と且神に信頼する事に依つて實に喜ぶと申されました。私共東京の青年會も斯様な方の上に立たれる會の一部分と思ひましたら嬉しくなりました。三名程總幹事の方が來られましたが、何れも立派な能力と信仰のある方で、他の人々より一歩上つた方々ですので、此の青年會キリストの名にある此の女子の團體の實に偉大なのに驚きます、種々の會に列してよく解つた時の嬉しさは堪りません。昨夜十時頃シカゴ大學に行き寄宿舍に參つて生徒の方の部屋に泊り今朝は講堂の禮拜に參りました、大學生の行のよい事、音樂の美しさ、全く禮拜の念が增しました。大學の建物を見て美しく思ひ乍ら寄宿舍に參り皆さんと一緒に食事をすませた後に寫眞を撮りました。舍生二三十名の方々に日本字で私の姓名住所を書いて上げ、拝借した部屋の方に御禮の置き手紙を書いて、又シカゴ市に來て夕の禮拜に一寸二十分程顔を出して、それから五時二十分の汽車で市外に參りました。サア、これから此の御家の事と津田先生に御面會の幕が開かれるのです。

十月二十日。リバーサイド、ミセス、クリー方。

今朝十時、津田先生は無事此の家に御着きになりました。御多忙な御生活と汽車の御旅行にも、さして御疲勞は無い様でした、いとゞ御元氣で嬉しう御座いました。私は米國に來てから第一に初めて日本婦人津田塾長に御目に懸りましたので、其嬉しさは、まあ、どんなでしたらう、皆様の御想像に御委せ致しますが、全く親子の對面の様でした。

先生は、直ぐ日本服が心地よしとて御着替になりましたが、其の間も御部屋を離れないで私の旅行話を致しました。先生は日本服に御靴、私は洋服を着て居りましたが、あなたは割合に眞直ですねと仰られました。

扨て小學校を參觀しました。全く日本と違ひます

ので本當に美しいと思ひました。個人教育が出來て自然に自由に個性を發揮し教師と生徒と親しまれて家庭と連絡がついて、又家庭的で、此の樣な處にて教育を受けるものは幸福と思ひました。日本の樣に一つ教室に四十人も入れて四十分は動いてはならぬきちんとして居つて先生が大きな聲を張りあげて教へますのですもの、教師も生徒も一つ型に入れられますから、生徒が成人してから困りますのです。晝の食事を娘さんこれは十才か九才かと思ひますのと同じ樣な甥さんと都合五人でしたが、其娘さんは食事中立派に學校で聽いた話をせられます、實に初めからの教育が違ふて居つて、私の樣に子供ぼくはありません。午後二時間學校に行くと申しました、小學校の建物は大きくありませんが、三ケ所に分れて居ります。或時間は、何の家、次はあれと、時間が終ると驅け出して出て行きます、居心地よい閑靜な部屋で、九人か十人勝手に腰かけて勉强してます。或處では四人座られる圓い卓で勉强してます、全く初めて米國の小學校を見ました。津田先生は今晩七時に御出發。私は其からミルオーキに歸る豫定で御座いましたが、此家の夫人が夜ではいけないから明朝主人がシカゴに行く時に汽車に入れて貰ひ晝間歸る樣にと御親切に申して下さいましたし、津田先生も夜はいけないからとて、御言葉に甘えて、私はもう一晩此の御家に泊めて頂く事に致しました。ミスメルリには打電して下さいました。此の御家は日本風に廣がつて、下はまるで何か存じません、二階に皆色々の間があつて全く珍らしい建築です、色もおとなしく餘り飾りがなくて粹な上品な事全く宜しう御座います、周圍は槲計りです、高い〳〵のです、食堂に居つて眺めますと槲の高い上の方に座して居る樣な氣が致します。此の夏、ミス、マクアーサーも一ケ月とか居られたさうですが、本當に心地よい處です。山田琴子さんが御一緒に此の家の農場に居られたとて、大變琴子さんの御話が出ます、此の家に來ては暖い家庭の空氣に滿たされました、何處に參

りましても、よく日本人を紹介しよく神様を御表し出來る樣にと務めて居ります。
　津田先生から日本の人形を戴きました。私は何も持つて參りません。昨夜はインデアナポリスから先生は御出でになりました。御百合さんも一日津田先生に面會が出來て何位嬉しかつたかわかりませんと思ひます。此の次はミルオキーに歸つてから書きませう。
　十月二十四日。ミス、メリルは椅子でカーテンの縫取り、私は脇の椅子で手紙書き、瓦斯の下で一寸よい心地ですから其の樣子を書きました。話は後戻りリバサイドを立ちます時は眞白に雪が積つて居りました。これは米國での初雪。十月二十日頃見るとは誠に意外でした。無事にミスタ、クーレーに汽車に入れていたゞきまして歸りました、ミルオキー停車場にはミス、レノクスが迎に來て下さいました。全く此度のシカゴ行は驚く事計りでした。ミルオキーに歸つて緩くり致しました、婦人の活動を實際に見て感心致しました、日本の樣に婦人が男子より低くない事を見て羨ましく思ひました。ミス、メリルもミス、レノクスも目出度く御役目をすませられました。

朝鮮一覗（其一）

河井道子

『雨は降り出す干物は濡れる、脊にや子が泣く飯や焦げる』といふ俗謡を聽きましたがこれは一度に用務が重つて來た時の心の働作をよく含ませてあります、自分も原稿締切の間際數事件の用務が重りたゞ狼狽する計りで何も秩序よく考へる事は出來ないが兎も角も友人等に約束もしてあれば朝鮮紀行といふ樣な六ケ敷い事は止として取敢へず浮び出るまゝの見聞やら所感やらを玆に記して見ます。
　私は日本基督教會婦人傳道會社の依頼により三月の末、學校の卒業式も御免を被り教員會議が濟むや

否や、仕度もそこ〳〵にして直に出發しました。平生旅行に仕度の要らぬ私故僅か二時間足らずで湯にも入り食事もし荷造もなし手紙もかき萬事を整へてから大急ぎで出掛けました。『初め急げは終り迄』とやら、如何にも其通りで飛脚の旅行をして來ました。

下關を出帆しましたのは三月二十八日の午前十時波風穩かなりしも平臥したまゝ釜山に着くまで身動もせず先づ良き休息とも云ふべきものを致しました船室内で二人の男子が色々の食物の話を初め日本は愚か歐羅巴の料理や名物までの品評には實に面白く床中で聽きました、鰻は何處が一番、河豚は如何にして食ふべきか、鰕はいつがよし、蟹の見分は斯くすべし、青魚の刺身の良さは何處なりとか、鯛の安きは彼處なりとか、マア是程の魚通人に出會つた事はないので、魚類學のよき教授に與つたと思つて居りました。唯船暈の時、食物の話を聞くは嫌なものとの同情心も散々に養ひました。夜の十時頃釜山に着するや通知もなしをかざりしに、秋元牧師、加藤長老其他數名の信者の出迎を受け感謝しました。これより朝鮮内地の旅行ですが夜分の事とて窓よりは何の景色も眺め得ず、車中の白衣の朝鮮婦人が巻煙草吹かすのと數人の居眠りとを見守るだけで一夜を送りました。二十九日の朝京城に着し多數の諸兄姉の出迎を受け何だか氣後れがしました。平素平民主義の旅行をして居る身には多數の送迎は恐縮に堪えないのです。早速坂出鳴海氏の御邸宅に招待され同地を去るまで同家に御厄介になりました。同氏御夫妻は大谷虞牧師より數年前授洗されしとかにて誠に美しき家庭です。十二を首に二つの孃ちやんまで都合四人の御子樣で、何れも可愛らしく子供好きの私は何よりの氣休めに思ひました。當日は日曜日なりし爲、早速教會に伴はれ朝の禮拜に列席致しました。京城の教會堂は煉瓦造りの中々立派なもので以前は演劇場なりしとか、禮拜所の後部の室は教室にして毎日井口牧師が樣々の組を組織し教授さるゝと聞きます。先生の實着而も勤勉なるには敬服の外あ

りません。其一を擧げると僅か二年間で朝鮮語に熟し、今日はそれで說敎もされ、多忙の餘暇を以て和韓辭典の編輯中なりと聞き、たゞ驚歎するばかりです。敎役者は何處の方面に於ても先生の跡を習はなければならないと深く敎へられました。其の夜は大雨にも關らず、中々大勢來會し私は「今一步」といふ題にて知れ切つた說敎を致しました。翌三十日より出立の當日即ち五日までは矢の如く過ぎ去り其間には家庭集會、婦人會、敎會に於ける公會、總督府病院の看護婦會、龍山の傳道會、仁川の傳道會等、獨樂の廻る如くぐる〳〵廻り步きました。四月二日には東京より植村正久牧師、横濱より毛利官治牧師來京されしを以て敎會諸兄姉の多忙さ想像以上でありました。

　京城敎會の最も私の目に止りました事は信者が一致共同の念に富める事、又傳道心の盛んなる事、眞面目なる事、信仰厚き婦人方の活動など、是等が其主なるものであります、折惡しく天氣一變して、雨となり、雪となり、集會にも最も不適當なるにも係らず、何れの集會にも皆勵んで出席され、友人を伴ひ親睦を計り客を快く待遇し、陰にて祈り、時間を惜まず、力を厭はずして活動されし敎會の姉妹方には心から頭が下りました。高等法院長渡邊暢氏夫人達子樣は、人と一師團が批評されし程の大勢の家族を引連れ、三十日に到着さるゝや、翌日の婦人會に列席されてより引續き何れの會にも出られ、御自宅には植村先生を待遇され、又諸集會、求道會を御宅で開かれる等、如何にして斯く熱心に時間を利用され、有る限りの善事を盡されかしと感服致しました。

　嬉しき事は何處にても舊友に逢遇する事であります、思ひ掛けなく京城にて數人の舊友に逢ひ、何れも美しき境遇に於て、或は家庭の人となり、或は敎育界に於て、全力を盡し活動して居る方でした。以前東京女子青年會の事務員たりし佐藤芳子姉にも逢ひまして、僅かの時間ではありましたが、樣々の談話もなし、同姉の實着にして確乎不拔の精神、正義

の履行に於て同姉が確かに精神上勝利を得て居らるゝ事を見て感謝しました。矢張り如何なる境遇にあつても神を信ずる者は、神我が城なり、わが牧者なり、我が嚴、我楯なりといふ氣丈夫な心がありますから、困難に打勝つだけの勇氣を與へられて居る事は、實に確かと實驗致しました。

橋本いく代姉は昔よりの友人で、今度實に良き家庭を京城に持たれ、御良人は熱心な信者、家庭には二人の御子息と四才の信子さんがあつて、和氣靄々として、其空氣、御主人の快活なる談話、のぶ子さんの廻らぬ舌で蜆の御吸物いたゞき乍ら『雀の御宿はどこぢやいな』と唱ひつゝ一同を笑はせしなど、何處より見るも基督者の良家庭としての思ひ、之も又感謝の一つでありました。其隣家に疋田氏とて十年以前米國のモーリス夫人の宅にて時々會食し共に宗教談を聽きし事ある方と知りし時の喜びは譬へるものかありませんでした。同氏夫妻も今回を期として京城教會に轉會されるとの事、増々御一家の御幸福を祈りました。

京野きん子夫人は以前東京にて一寸御目に懸つたばかりでありますが、同じ友人を持ち合せ居る中とて、舊知の如き思を致しましたが、此際又相會し樣々の信仰談をなして別れました。丁度京野氏を訪問して居りますと、三宅民子孃は貴女の御弟子でしたが、今は奥樣で當地に來られ、此の御隣りに御住居ですとの事で、又驚き御出を願ひ一同相會し共に樂しく笑談致しました。

然し此度與へられし新しき友人も中々澤山で御座います。信者は何處にありても始めて逢ひし人も皆友人となれるといふは何とした特權で御座いませう

其日左の如き招待状を受けました。

敬启者本月四日土曜下午六點鐘在恵
泉館略具晩餞奉邀
尊駕乞　賜光降肅此順頌
奉安　　京城長老教會代表
韓　錫　晋　頓

六ヶ敷いが、何しろ朝鮮の牧師が夕飯に招いて下さる事は解つて時間通りに參りました。抑々朝鮮人の普通の住宅は如何にも哀れな見すぼらしい小屋であります。市街を通つて唯だ通一遍に見たゞけでは彼等の住居の小綺麗な家は到底目に着くものでありません、それで之が其家と敎へられた時、かゝる不潔な敗屋で如何に箸を手にする事が出來やうかと感じました、案内さるゝまゝ門内に入ると豈にはからんや通りより見えざる處に日本の御宮風の御座敷があり、階段を上り廣からずとも小綺麗なお座敷に招待されました、座には數人の日本人又十人餘りの朝鮮人其内二人は婦人で共に食事を頂戴ました。御馳走を見ますと、日本の方が却て朝鮮から御膳や食器料理法を習つたのではあるまいかと思はれます位でお膳と經机の中間をとつた樣な膳へ、樣々の珍味を載せて各自に一膳づゝ出すのであります、料理も支那風異ふ所は何でも皆冷いもので熱いのは御吸物計りであります、御飯は鰻丼位の瀬戸物にうんとつめ込み一杯にて足りる樣になつて居ります、何の品によらず山盛りで一人前にて三四人優にいたゞける位の分量をごて／＼と盛つてありました、朝鮮の漬物なりとて小丼に一ぱいづゝ一人／＼に出て居りましたが、馴れざる者は食へられませんが、日本人も土地に馴れた者は之を一番好むと申します、料理は胡椒、芥子、唐芥子の如き藥味を非常に用ひ、よせ物とかきんとんの如き砂糖氣の物は絕對に無いのは當地の料理法とか聞きました。（つゞく）

上海便り

上海　櫻田晩香

當地は支那市街の人口四十萬共同租借地各國人の人口約五十萬、合せて百萬に達する人口を有する開港地に有之候最も勢力を有し候は英國人にて上海居留地の市政も英國人によりて制せられ居り候、佛蘭西人は別に行政機關を有し獨立致し候。

吾が同胞は領事館に登錄せられし人のみにて一萬人無屆の男女を算する時は優に二萬を超ゆべしと申候この大都會に於けるクリスト敎の敎勢を見るに舊敎はさて置きプロテスタントに於ては浸禮、プレスビテリアン派優勢に御座候當地に於て敎育機關は支那官憲によ

りて經營せらるゝもの一もなく大部分は各派ミツシヨンの經營する處に候、故に苟しくも教育を受けんとするものは宗教學校に入る必要あり、今日有爲の人物になり居るものは大抵宗教學校出身に候、從つてクリスト教も大分深く這入り居り候日本人上流社會の住宅多き北四川路と申す邊りを日曜日の十一時頃散歩いたし候はゞ教會歸りの青年男女、老人少年少女三々五々通る有樣は中々盛なる事に候一般富貴の社會より中流に渡り信者の數は非常に多く候。

更に日本人側の宗教を見候に、東西本願寺、本國寺の三ケ寺ありて佛教を標榜いたし、日曜學校、女子補習學校、女學校等を經營いたし居り候、基督教に於ては日本人基督教會、日本基督教青年會、目本基督教會婦人會有之僅なる基督教を鼓吹いたし居り候、其外に英國婦人ミス、スミスによりて創立されしアンガラツク、ミツシヨン Angarrack Mission と云ふもの有之、日本人專門に傳道罷在候由來「殖民地風」なるもの有之一般の氣風頽廢いたし男女ともに社會の制裁緩にして惡意味に於ける解放されたる生活を營み居り候。

日本人基督教會はインターデノミネーシヨンにして所謂ユニオンチヤーチに有之目下會員四十餘名日本クリスト派の多田牧師、教會を牧し居られ候來る六月には植村氏來航さるゝ筈なれば其際大々的擴張的傳道を致す由に候當地に於ける日本貴婦人社會は愛國婦人會有之之れが機關たる有樣なれども例會には衣服の展覽會に過ぎず何等精神上の修養に資する企ありしを聞かず候佛教婦人會も似たりよつたりにて唯異なるは珠數を手にする位に候それかと申し候て基督教婦人會も大なる事業も致さず候も月二回の例會に於て牧師其他の講話を聽き更に教會内部の信仰の奬勵、日曜學校の經營等いたし居り候來る四月十一日には中國青年會館に於て婦人會主催のバザーを致し大に活動する事にいたし居り候。

心に憂ふること勿れ

木岡莞爾

頃は明治十八年、綠流るゝ品川の樹々も若葉の青物横町、知本小學校といふに、笑みを含める生徒の一群、今しも聖句の暗誦に餘念ない。教師は築地の宣教師レート氏、我日の本に遣はされたる天使もかくやと思はるゝ許りであつた。

此附近に住める某少女が未だ十歳の頃、生徒等の暗誦せる聖句、約翰傳第十四章「汝等心に憂ふる事勿れ神を信じ亦我を信ずべし」の一節がいたく彼女の心を刺激し、遂に其年の秋九月芽出度洗禮を受くるに至つた、現在の夫に嫁してより四五年の後、耐え難き十字架、忍び難き心の苦痛に、涙の乾く日とてはなかつた。

一日尊敬せる信仰の友たる或る夫人に、一臂の力を借らんと事の由を語られた、其夫人は深き同情を以て聞き終り、涙に水莖を浸して、料紙に何事かをさら〳〵と認めて與へられた。見れば「汝等心に憂ふる事勿れ神を信じ云々」と書てあつた。噫自分が救はれた時の聖句、今又神は姉を通じて警告せられたのであると胸に釘を刺さるゝ思ひにて、今更ながら信仰薄かりしことを歎き、只管祈りに祈られたが、さしもの重荷もエスに依て輕くせられ、感謝の涙に咽ばれたのであつた。數年の後彼の尊敬せる夫人が此家を訪はれ、此度の歸國は生命懸けである、地上では再び御逢ひ申す事も叶ふまじと涙を流しての暇乞。此言を聞かれたる夫人、胸の戰慄を鎭め徐に云はるゝに、寔に御同情に堪へません、之は先年の御返禮にとて「汝等心に憂ふる事勿れ云々」の聖句を餞別とせられた。其の夫人も此聖句を力草として旅行を終へ、何事も都合よく解決して感謝せられたといふ事であつた。噫此聖句が三度信仰の旅程を導く火の柱となつたのである。

小説

ひとりぼつち後篇

河井道子譯

第三章（つゞき）

マレーは妹の粗忽を咎める調子で、

『其の倒れて居た人の側に行く前に呼んで見たらよかつたぢやありませんか。私なら死んで居るか生きて居るか試す爲に道でもきいて見ますわ』

『本當に貴姉ならば正確とした事をなさるのでしたらう、私は出來ません、出來なくつて反つて仕合せ』とベテーは戸をぴしやんと閉めて部屋から驅け出して行きました。姉は耳に手を當て、

『もう少し彼樣に亂暴でなくてほしい……さあ今きいた彼人物は小説に書入れたら中々興味だらうバイロンに彷彿をるでせう、色は薄黒く苦味あり多情多恨で戀人に侮辱された樣な處等は……』

ベテーは又も姉と意見衝突して自分の寢部屋に來り窓際に肘を突き慢然として日當りのよい庭園を眺めつゝ、

『彼人は誰れかしら、知りたい事、立上つた時兩手を堅く握拳にしてさも憎さうに私を凝視たがあんな場合を見付られたので立腹したのでせう傲然た人に違ひない、斯く人々から遠ざかつて一人で思ふ存分吐出て居たのでせう、妻のある人かしら、夫婦喧嘩でもしたのかしら、彼の顔は何處で逢つてもよくわかる。嗚呼本當にこんな閑靜な麗はしい田舍にも苦惱が人々を襲撃らしい、花や鳥計りが本當に樂しいのでせう、然し人間には解らないが彼等にも亦相當の苦痛があるのかもしれない、そう／＼これから敎會に行つてオルガンでも彈いたら色々の氣晴にもなるだらう』と云ひつゝ再び戸外に出て聲靜かに唱ひ乍らオルガンの風入れを探す心算で並木路を歩いて居ますと又彼のマットが煙管を啣え垣に凭れて居るのを見付たので立止り、もう一度彼に依頼して見よう拒絶たつて構ないと思ひつゝ、ベテーは愛嬌漫々の調子で頼んでみると。

「俺に頼まんでも村にやいくらでも小僧共が居るに」

と例の不愛嬌な返事にペテーは縮まず、

「けれどね、お前さんが一番好いのだもの壯健で膽力があつてさ、小さい者だと直ぐに疲れて仕舞ふから可哀想でせう、加之、小供達は無鐵砲だからびくつかせて甘く風が入らない」

「今度だけして上るさ、二度とは眞平だ」と啣へた煙管をとつて凭れし垣根にてつく〳〵吸殼を叩き落して居ります。

「次回までは頼まない」と處女は可笑しそうな目つきで息の下に申しました、斯くて二人は一緒に教會に入りますと頓て優雅な音樂の音は高く低く響き出し、ペテーの顔色は歡喜の色に輝きました。一時間は直ぐ經過ましたが未だ止めもせず、會堂の大時計が催促するが如くに打始めましたので氣が付き是で終りと「愛の王」の讃美歌を唱ひました。

わが牧者は愛の王、そのみめぐみにかはりなし
われにかげなし永遠に、王はわがもの
　　われきみのもの

隅に居たマットの顔は麗しき聲を聞くにつけ妙に痙攣やうでした。歌がすむや否ペテーは胸に漲る感情制し得で、

「マット、何ときれいな詞でせう、私は大好き、不足も不滿も此歌を唱ふ度に消えてしまひますの、王は我がもの我王の物なんて一日中此句を心にとめて居たらどんなによいでせう、教會で唱ふ時ばかりでなくつてさ」

「不足のねえ人つてはありやしねえ」亂暴な返事にペテーは詞を續ぎ、

「永久まで我は神のもの神は我のものといへる人は少ないだらう」と悄然と云ひますと、盲人は返事もせず澁面作つて、どたばたと床を踏ならして出て行きました。ペテーも靜かに後から從いて行きますと老人は不意に向き返り教會の戸に脊をひたとつけ、息も荒く、

「御孃さん御前さん方は端然と座り込んで結構な文句いくらでも云はつしやれ、御前さんなど罪惡とか苦惱事なんか知らしやるめえ、良き飼主とか牧場とか死の影の慰めなど喋々許多饒舌らつしやれ、いくら云つたつて、そりや寢言なんだ、もしお前さんが頌詠てる神さんに俺の樣に慘酷く待遇れて見たら、そりや神さんを有難がつて讃美なんか出來るものかさ、フン、良き飼主！愛の君、フン、俺の考じや暴神樣々だ」と思ふ存分陳述立てました。

「お止！お止！マット、神樣の宮でどうしてそんな事が言へるの？私はねお前さんの難義を聞いて眞底から氣の毒に思つて居るの」といひつゝ優しく老人の腕に小さな手を置いて兩眼に涙を浮べつゝ不憫なマットを見上げました。

「私がほんの子供の時にね難義つて何か知らないがそれがほしいと思つた事があるの、それは神樣に屬く人には是非ともあるものと信じ込んでそれを求めた事があります、困難は必定人を神に近づけるものと思つて居たら、それが反つて人を神から遠ざけるものとは夢にも思ひつかなかつた、今でも私は艱難辛苦は確かに我々を神に近づけるものと信じて居ます、然しお前さんの言ふ通り私は經驗のない者だから餘りお話する權利はないさね、唯ね「邪惡て愚鈍の迷へる身をばなほも愛もて尋ね給へり」との句を唱ふて感じた事は、若し我々が神樣に脊を向けるなら、とても神樣の愛の御顔は見られないといふ事、此事を考へたのよ、つまり御互が神樣の愛から離れて居て困難も自分で製造出すものかもしれない、お前さんだつて今神樣の方にぐるりつと向かへるとお前さんの後に從いて來て居る神の愛を見る事でせう唯脊中向けてる限りは駄目ですよ」老人は無言のまゝ戸を開けて出て行きました。

ベテーは「さよなら」と呼かけましたが返事はなく杖を力に一心と急いで行くには少なからず處女を驚かせました。ベテーは並木路を歩きつゝ「王は吾もの吾君のもの」と繰返し唱つて居りましたが、其

音調がマットの耳に通じた時、盲人の口から我知らず太息が洩ました。ベテーは歸宅して見ますと客間には茶が出て居て訪問者がある氣配。誰れかと思へば、ミスタ、ラセルがストワード夫人と談話中でした。

「あゝ」といひつゝ紳士は立起り。

「これが私の小さい友達で御座います」とベテーの手をとり言葉を續ぎ、

「奥樣、私は此人に改まつて御挨拶を致しませんでやめてゐた處から、又交際を續け出す積りで御座います、私には今晩氣取つたり勿體振つたりは眞平御免です、それは大禁物」と紳士は戯談半分の口吻、ベテーも其調子に乘じて、

「次回御訪問の時は白の火防帽子にオランダ風の子供服でも着て居りませう、そして昔通り貴下の犬車に乘り歩いて嬉しがりませう」

「それは馬車に乘せよとの意味でせうね、承知しました何日が御都合です、明日？」

「母が許可して呉れましたらば」

「御連れ下さいまし、マレーが側に居つて呉れますから宜しう御座います、ラセル樣御親切に有難う御座います」と夫人は禮を述べて、話題は轉じて某ジエラルトアーランテルの噂になりました。夫人も本人とロンドンで識つて居り、現在此附近の煉瓦邸宅といふ大家に住んで居るとの事をきいたのです。

「私は議會で彼の人の初ての演説をきいた事もあります、たしか慈善事業や矯風事業に熱心な人でしたね、私は常に彼の人が萬事に精通した修養の積んだ方と思つて居りましたに、何故急に隱遁して仕舞つたか不思議に存じて居ます」と夫人が申しました。

「あれは當人の母親の仕業で御座います、此夫人は差配人と折合が惡くて誰れも長く居されないといふ短氣者で財産問題に面倒が起り、遂にジエラルトは自分が差配人の役をしなければならなくなつたんです、それで次回の選擧期には二道には立たぬとて候補者の位置を他に讓つて退込でしまひましたが、威

心な人間です、其後二年經て母親は死亡しましたがジェラルドは都の生活の趣味を失ひ田舍の邸宅が氣に入り自分の小作人の爲に樣々の慈善的計畫等をして居ます、地所も中々廣く持つて居ります。私は彼を子供の時からよく知つて居りますが、何時も其の堅固不拔の精神には感服して居ります、何事も彼を動かす事が出來ません」

「御結婚なさいましたか」

「否未だです、彼は仕事の餘暇を書齋で送つて居ります、書齋こそ見事なもので貴重な珍らしい書物をよくも〳〵聚集たものです、御承知でせうが彼の父親は大變な本虫でしたが息子もそれを承繼ぎしたので、讀書が彼の道樂で御座います」

「私も毎度娘達に各自目的を立てなくてはと聽かせて居ります、自分の周圍が自分と調和ない時は何か自分に樂しむ樣な趣味を藏蓄へよと申して居ります世間にある苦痛の半分は何もする事が無いから起るので御座いますね」といふと、

「他の半分は休息が無いから起るのです」と面白さうにセラル氏はつけ加へました。

「マレーにはよい道樂がありますが私は未だ御座いませんの」と悄れてペテーが言ひますのでミスタ、ラセルに、

「それは何ですか」と尋ねられた、マレーは老紳士の鋭敏な眼光に羞らひつゝ、

「私は著述したいので御座います」と内氣に返事を致しました。夫人は寵愛娘を莞爾と見ながら、

「マレーは亂雜な想像力を持つて居りますから、それ丈が著者の成功に必要なら、此娘は大成功を致しませう、然し何時も申しきかせます樣に想像は人を面白がらせ氣晴しをさせますが決して人間を向上したり訓練したりは出來ないもので御座います、思ふに世間には人氣をひく面白い本は絶える事がありますまいから、もつと高尙な仕事を娘達は見付て呉れると結構と存じます」

「お母樣、私は立派な事も偉大事も一生かゝつたつ

て來る樣に生れて來なかつたのです」
「それは知れた事でせう」との母の批評に逢ひしマレーは別に失望の色もなく、興味そうに話して居ます。
「するとベテーは想像力の恩惠には浴して居ないと仰やるのですか」とラセル氏の尋に、ベテーは笑つて、
「私は姉の樣に想像的の愁歎に耽つて居る樣な忍耐力が乏しいので御座います、マレーは時々自分で憂鬱にして仕舞うので私はそんな事は罪だと思つて居ますが如何でせう、いはゞ故意に蠅でもを二つに切り乍ら其爲に泣く樣なものでせう」ドクラス兄は子供の時によくそんな事をしましたが」
「御身には道樂がありますか、ありませんか」
　ベテーは頭を振り、
「オルガンを彈く位です雖然私は毎日異つた事が好きになる樣で御座います、そうかと思へば又或時は何もかも嫌になりますので御母樣は私が我儘だと仰るわけです」
「拙者の手に一つかけなくちやなるまい」と微笑しつゝ紳士は妹娘を見て居りました。ミスタ、ラセルは古風な牧師館の座敷が薔薇の芳香馥郁たるので心地よく其上眞白な衣裳を着けた二人の令孃と其側に優美な母親の居る此場所を立つのが嫌である樣に、少焉逡巡ひ居りましたが多分彼の美的觀念が此光景を樂んだのでありませう。

信仰と云ふことを

小田原　寺西良造

心あれはたかく貴き天地の
　かみのこころもみるへかりけり
天の神のまなこにおはすエス君を
　つきひと仰くつみの子われは

「聖書の中に我を讀まざるべからず、現在の我を超越して新らしき我を發見せざるべからず」と柏井園氏いはれたれば

花一枝あゝ恥しのわが身哉　　莞爾

馬可傳研究

マクドナルド

使徒ペテロ（三）

以上の研究に依て考へて見ますと、ペテロは是非共終生基督に師事したいと思ひまして、眞心から基督を先生として愛したに相違ありませんが、元來ペテロは頗る意張つた一見識を有つて居る質の人で御座いまして、假令先生でありましても、自分の考と違つた事をいつたり、腑に落ちないことを爲さるれば、遠慮なく之を諫止もすれば否認もするといふ風でありましたから、彼が基督の言行を見聞して一寸淺墓に考へて躓ぐやうな事があつたらうといふ事は、想像するに困難なことではありません。かやうなペテロの性質を記憶して後にペテロの爲しゝ事に想到いたしますならば、基督の臨終間際に於けるペテロの失敗の理由は充分に了解が出來るであらうと思ふので御座います。

十四章三十二節乃至四十二節にある事實は基督の運命愈々窮迫して明日を待つ事も出來なくなつた其夕に基督は愛する弟子即ちペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人を連れてゲッセマネといふ淋しい園へ御祈のために御出になりまして、弟子達に『我心甚く憂て死ぬばかり也爾曹此に待て目を醒し居れ』（卅四節）といつて、少し離れて御祈になりましたが、其三人の弟子は最早夜は更けて來るし疲れては居るし、基督が祈つて居らつしやる間も我慢する事が出來なくて、又基督の憂苦をも忘れて、皆グウ〳〵眠り入つて仕舞つたので御座います。基督は祈を終て弟子達の所に立ち返つて此の體を見てペテロに向つて『シモン汝寢たるか一時も目を醒し居る能はざるか誘惑に入らぬやう目を醒し且祈れ其心は願ふなれど肉體弱きなり』（三十七、三十八節）と仰せられました。

此時に眠入つて居たのはペテロ一人だけでなく、他の二人も同様に眠つて居たのでありますのに、基督は何故にペテロにだけ、斯く注意を與へられましたのでありませうか。是は前に申ました二十七節乃至三十一節の事柄を照合して考へて見ますならば、一目瞭然で御座いまして、ペテロが此後直に思掛けもない失策に陥る事は殆ど自然の逕路とも考へられたからで御座います。斯くして基督の痛める心は終に弟子達よりしては一言の慰をも得る能はず、基督は終に絶望に陥つて運命を敵手に委すべく覺悟されたので御座いました。（十四章四十一、四十二）

ペテロは基督の頼みとなるべき筈の弟子で御座いました。然に基督が敵手に捕へられる時には誠に頼み甲斐なき弟子で御座いました。基督を捕ふるものが基督を捕へて祭司長の役所に連れて參りました時に、ペテロも外の弟子達も皆驚て逃げて仕舞ひました。基督は最早單獨で其大なる試惑に向はねばなりませんでした。私共は此に至つて前に申上ました十四章三十一節のペテロの力言を繰返して讀んで見たいと思ひます。其と此とを比較するに眞にペテロは剛毅な廣言を致しましたけれども、終に基督の仰つた通りに躓きの第一歩を踏んだといふ事が分るので御座います。

しかし、ペテロも流石に全く基督の前途を氣遣はずには居られませんでした。隠かに基督の捕はれた祭司長の役所の庭へ紛込んで、遠く離れて様子如何と窺つて居た處（十四章五十四）を或る婢と他の一人に三度誰何され、臆病にも彼は三度共耶蘇を知れるものに非ずと言放つたので御座います（十四章六十六―七十一）、嗚呼、前の『基督のためには死も亦辭せず』との勇み振りは今や果して那邊に在るでせうか。

思ふに、この刹那はペテロが薄志弱行の最底逕路を進行しつゝある時でありましたが、一度基督を知らずと言ひ放ちは放ちたるもの丶、其心の奥底には許されぬ不安がある、而して後を振り向き給ふた基

督と面と對き合つては、更に『雞鳴かざる前に三度我を知らずと言はん』との基督の仰言か全く箴をなして、其の通りに落ち行く自己を顧みて、最早我慢にも我意を張る事は出來ず、前後なく泣哭悲倒するの止むなきに至りました、(七十二節）是れぞ、ペテロが薄志弱行の最低逕路を拔け出づる最初の階段を上りし刹那でありました。彼のペテロが基督を知らずと三度絶叫したる刹那に聞いたといふ雞鳴は、實にペテロ自身の心の暗より離るゝ曉を告ぐるものであつたので御座います。

ペテロは悔改ました。そして基督に對して申譯のない事をしたと思ふて如何にもして一度基督の面前に罪を謝して其赦を得たいと思ひましたが、最早遲かつたので御座います。終に基督の臨終前に其機會を得る事は出來ませんでした。若しペテロが通常の考であつたならば此際唯前非を悔ひても最早基督に對する罪を贖ふ機會を得る能はざるを悲しんで失望悲觀に沈淪して仕舞ふやうな事がないとは限らなかつたのであります。ペテロの後悔は眞心からの事であつた丈け、其基督に對して申譯ないといふ念慮も、自分の意氣地無を恥ての悲哀も、基督は既に刑場の露と消える場合に臨んで居らるゝを見ての苦痛も一通りではなかつたのでありまして、彼は殆ど自己の中に自己を見出すことが出來ないで、煩悶憂慮に喰ひ盡されんとして居たのであります。

以上に述べた所は馬可傳十五章迄に現はれたペテロの記事を基礎として研究したものでありますが、猶ほ一の事實を語らねばなりません、それは十六章の一節より八節までの事柄で御座います。しかし、此事柄を研究するに先つて、一應使徒行傳二章三十六乃至四十二節を讀んで見たいと思ひます、この使徒行傳に現はれたペテロと馬可傳に於けるペテロとは同じ人とは思へない程非常の相違ではありませんか。馬可傳に於ては地の底を這つて居る土龍の様に見へるペテロが使徒行傳に於ては天翔ける鷲の如き勇氣と喜を以て居るやうに見えるので御座います。

既に基督を捨てたガリラヤ人は如何にして斯く喜ばしく基督の十字架を宣傳する事が出來るのでせうか一寸考へて見ると殆ど其筋道が分らないので御座います。けれども、私共は乃ち再び馬可傳の終に立戻つて研究して見たいのでありまして、馬可傳十六章の事實こそ此の筋道の分らない一條を筋道の分るやうにするものであると信ずるのであります。

此十六章の事柄は申す迄もなく基督の甦の事實であります。ペテロは前に申上ましたやうに、基督に對する自分の大なる罪を頼みまして、如何して自分の不調法の御詫をせやうか、其罪を赦されやうか、又それを清める事が出來やうかと煩悶の結果、平生の元氣も何處へやら、もう、同じ弟子達の仲間になつて顔を見らるゝも恥しく、地の中へでも消へ失せたい思を以て、鬱々怏々として憂苦の一日を過して居たので御座います。然るにペテロは基督が敢なくなられましてから三日目になつて意外にも基督が御甦になつたといふ事を聞きましたので御座います。此時の記事に就て馬可傳の本文を見ますと「其弟子とペテロに告げよ」（七節）とあります。ペテロも同じく弟子の一人であるに拘らず、「其弟子」といふ外に特にペテロの名を擧げました譯は何故でせうか、之は格別に注意すべき事と思ひます。蓋し基督はペテロの大なる躓も、其眞心からの悔改も、又た其絶大なる悲痛に沈で居る事も明に御存じでありましたから、彼を特別に容赦し且奬勵する精神に於て、特にペテロの名を御呼びになつたのではありますまいか馬可傳はマコがペテロから聞て書いた福音書であると言傳へられて居りますが果してさうでありますならば、ペテロは特に斯く感じた所をマコに傳へたものであらうと思ふのであります。

斯くて、ペテロは此の思ひも寄らざる福音に接し又甦りし基督に親炙して既往の罪過の赦を受け、茲に其心機全く一轉して悲痛は歡喜となり、憂悶は勇氣となり、悲觀は希望となり、全然生れかはつた性格となつて、基督の爲に其生活を捧献して其生活を

遣る事が出來たので御座います。ペテロ前書一章三節には此間の消息を自白して居ります。曰く

「讃むべきかな、神我等の主耶蘇基督の父、彼は其大なる矜恤を以て我儕を再び生み、我等をして耶蘇基督の甦り給ひし事によつて活ける望を得させ……

——(此項終)——

○六號座談

六號老人

▲「健全な精神は健全な身體に宿る」といふのは、我々個人の上にいふ事ばかりぢやないよ。一社會でも、一團體でも、皆同樣だよ。どうも、肺病患者や胃病患者には、活々した精神が乏しいと同じやうに其組立から萬般の獻立が、キチンとした團體でなくちや、キチンとした精神は起らないね。

▲活動する段になると猶更らさうだよ。健全な活動は健全な身體がなくては何んにも出來ないよ。肺病や胃病のものには到底活々した働の出來やう筈がないと同じやうに、鞏固な組織がなければ、其團體の働は、すべて勞して功なしとまでは行かんでも、其骨折の大半は無駄骨になつて仕舞ふだらうよ。

▲此事はね、老人は格別に今の基督教團體に就て、さう思へてならないよ。基督教の連中は精神は勿論敬服だし、働く事も恐入るが、其精神や活動の身體となるべき團體の組立乃至經營といふ點になると、遺憾に思ふ事が澤山あるね。

▲若し、もつと組立から經營を充分にやつて、それから其の精神をもつて活動したら、現在の成功の六十倍も百倍もの功果があるだらうに。

▲よく、人は現代は人物が缺乏といふがね、それもさうに違ひないが基督教社會での缺乏は、更に、組立とか經營とか、事務的方面の缺陷が非常なものだと。尨大な團體を作る事は、そんなに六ケ敷事ぢやないが、其を適當に活動させる事が困難なんだ。教會などでも信者を拾ひ込むのは、一度大學傳道とか、擴張運動とかいふやうな、お祭騷をやれば、五十と百と人數は殖させるが、それを秩序する運動とし、永久的に信仰を養はせて行くやうにするのが骨折なんだよ。今の處では其點がゼロ助だね。

▲東京などでも、教會は澤山あるが、此點に氣がついて甘くやつて居るといふのは、一二を除ては皆落第だらう。

▲世の中を見渡すと、其組立や經營が甘く出來て居るとのに精神方面も活動方面も發展しないのがあるし、教會などの樣に、精神方面活動方面に、多少見るべきものがあると思ふと、組織經營の方に缺陷がある、本當に都合よく行かないものだよ。

▲其兩方面を能く調和して行くのは、今後此等の事に關係するものゝ、十分に考究して懸からねばならぬ問題だよ。其調和が出來て來れば、所謂健全な精神、健全な活動は、健全な身體に宿る事となるので其處に確乎不拔な基礎を置く事から來る事となるんだれ。

▲この老人も、もう十年も若けりや、其方面に對して、ウンとやつて見たいやうな氣がするよ。ハヽヽヽ

天機奉伺

四月十四日午前、總幹事河井道子は日本基督教女子青年會を代表して宮内省に出頭し謹んで　天機を奉伺したり。

●幼稚園新設　東京基督教女子青年會に於ては今回新に貧民幼兒童のために幼稚園を新設するの議熟し愈其準備計畫中なれば近日中に詳細を發表報告するを得るに至るべし。右につき主任保姆として静岡英和女學校出身にて卒業後信州上田保姆傳習所に學び先年同所を卒業し實地に於ても充分經驗を有する大槻愛子姉を招聘したり。

●プール女學校青年會　三月二十三日總會を開きしが、讃美歌、聖書朗讀祈禱の後、會長より一ケ年間盡力されし役員に對しての感謝並に卒業さるべき會員が今後もなほ青年會員として何處に於ても社會の爲に盡されん事を望むとの希望を述べられたり、次に今まで通學生の爲にはキングスドータース寄宿生の爲には慈善會と同じ働を別に致し居りしが新學年より之を合併する方よろしからずやとの發議あり全員一致を以て可決す、次に其名稱につき討議せしが纏まらず遂にキングス、ドータースか慈善會か何れの名稱となすべきやを多數決に問ひし時一員起てち二つとも失ふは惜しく二つながら保たしめ度き故キングス、ドータースを譯して王女となし之に慈善會を加へて、王女慈善會となさばやとの議に會員賛成可決、それより役員撰擧をなして、各部の報告に移る、左の如し。

●●●●●●●●●

キングス、ドータース

第一學期　金二十圓を三一教會に寄附。

第二學期　金六圓五十錢を博愛社へ寄附。

第三學期　金五圓五錢の益金あり、前學年より受繼ぎし金七圓五十錢を併せて王女慈善會の必要品を購ふ事となす。

●●●

慈善會　一二學期計算

前年より受繼ぎし金二十七圓九錢五厘。
總收入金四拾六圓九十二錢内純益金十九圓八十二錢。
支出、材料、四十一圓十錢五厘。
差引殘金五圓八十一錢五厘。
猶第三學期に製作せし造花、細工物、刺繍等は來る文藝會を利用して賣捌かんと計畫中なり。

●●●日曜學校　紡績に於ける日曜學校は生徒三十名ほどなり、而して生徒が前に比し非常に善良となりしは誠に喜ばしき事なり、又他所に於て開かるゝ日曜學校も増々善き實を結びつゝあり。

●●●慰問部　紡績に於て特に我が働の如何に善き感化を與へつゝあるかを知り得るは、同社内の病院に病臥せる女工の己が信ぜし神々の如何に力なきかを知り唯一人の神に依り恃まんと求めつゝある事なり、諸姉の厚き祈りと之に當るべき役員の大なる盡力に依り増々哀れなる同胞の中に愛の神の御榮顯はれ限りなき喜びを得させんことなり。

●●●雜誌部　『女子青年界』は前に比して賣行よく『日曜世界』は賣行惡し。

●●●博愛社部

第一學期に集まりし金　十五圓餘
第二學期に集まりし金　十三圓餘
第三學期に集まりし金　十二圓二十錢五厘
(但し全校生徒が養ひつゝある一女兒の養育費の爲)

◉宮城女學校青年會　當校青年會は大正三年三月二十三日午後二時より自習室に於て次年度に於ける役員撰擧會を相開き申候、先づ祈禱(鈴木まさ)報告(同)ありて、規則第五條に役員中會計一人とあるを次年度より二人となす事に付本會規則改正案を役員五名連名して提出し滿場一致にて可決し、出席調査(野村とく)會計報告(西塚かほる代鈴木まさ)より選擧に移り、終了後閉會の祈禱(フアウスト校長)を以て散會仕候。
役員及委員當選者左の如し。

會長　渡邊秀尾　　副會長　菊地そよ

會計　及川みつ　松倉たま
記錄書記　熊坂かつ　通信書記　岩崎郁子
集會委員(長)秋保うりう　佐藤みさほ　田中靜枝
誘導委員(長)堀江ひで　木村とし　片桐やゑ
親睦會委員(長)高橋こと　梶原小松　田中やゑ

(通信書記岩崎郁子報)

●**横濱女子青年會**　四月中旬に開催の豫定なりし大音樂會は御大喪の爲め御遠慮申上て秋期まで延期す、委員等は一ヶ月間も殆んど寢食を忘れて雨雪の中を厭はず日々奔走して準備をなしたるものなれば秋には大成功を見るなるべし、委員一同今回假令音樂會は中止となりしも近々何か靜粛なる催をなし目下必要なる維持費を造らんと協議中なり、共同一致の精神充滿したる此の委員會の如きは他に其比を見る事稀なり。

四月廿一日午後三時よりフレザ夫人の送別會を開きしに大勢出席者ありき、高木夫人の挨拶、藤田夫人の送別の辭、男子青年會の大村益荒幹事の横濱市男女青年會協同必要理由、河井道子の感謝の辭、同夫人の答辭等ありて後に茶話會となり西川夫人の厚意にて少女の踊を餘興とし相互に懇談をなして親睦に時の移を知らざりき。閉會後數人の委員等居殘り夜九時近くまで會の爲に協議を遂げたり。

●●●●●

○河井總幹事　日本基督教女子青年會總幹事河井道子姉は前號所報の如く朝鮮大傳道應援のため出張中なりしが無事其任を果して四月十二日歸京。

●●●●●

○ミス、ワトネ　東京基督教女子青年會幹事たる同姉は昨年來健康勝れざりしが今回醫師の勸告もあり旁々休養のため郷里英國に歸省さるゝことゝなり印度洋を經て歸英すべく四月廿四日出發せり。健康恢復後再び東京に歸來せらるゝは多分一ヶ年の後なるべし、航途の安全を祈る。

雜報

○婦人矯風會事務所設置　婦人矯風會にては今回赤坂區溜池町(葵橋停留場前)に本部事務所を新設することゝなり家屋修繕設備等一先完了せしを以て四月十一日午後二時より靈南坂會堂にて事務所開きの感謝祈禱會を開き山室軍平金森通倫二氏の奬勵あり會するもの三百名に近く會後一同を新設

事務所に案内して茶菓の饗應ありし由。

○京濱婦人大祈禱會　四月二十五日横濱市蓬萊町メソヂスト教會に於て京濱婦人大祈禱會を催し、山田千代子女史、フランソン夫人の奬勵あり、出席者も頗る多く有益なる集會なりし由。

消息

○ミス、ワトネの父君　ミス、ワトネ（東京青年會幹事）の父君と二人の姉君は昨年十月英國出發支那內地に於て傳道に從事せる二方の姉妹を訪問し去る四月上旬東京着、各地觀光の上十七日サイベリヤ鐵道にて歸英の途に上らる。

○ベーカー氏夫妻　ミス、ベーカー（日本女子靑年會幹事）の御父母兩方にて打連れて世界漫遊の途來朝東京に滯在中なり近く濠州へ出發。

○女子英學塾卒業生　同塾女子青年會員の中、岡本翠姉は弘前女學校に、高折加那於姉は廣島縣福山高等女學校に、上野梅香姉は信州上田梅花幼稚園に、馬場靜江姉は大坂ウヰルミナ女學校に、高橋姉は大坂梅花女學校に、一條こと子姉は廣島高等女學校に岩光姉は横濱にそれ〲奉職の由。

○高水はつ子姉　女子學院卒業後臺灣臺中の松岡家に家庭教師として招聘され二十日に出帆す。

○岡山花子姉　横濱フェリス英和女學校卒業後仙臺一の瀨日本基督教會にて働かる。

○フレーザー夫人　横濱女子青年會創立以來大なる同情を以て有効なる應援をされし同夫人は去る二十四日渡米の途につく多分一年位の滯在なるべし。

○チャーチ氏夫妻　米國ミルオキー女子青年會の役員たるチャーチ夫人は良人と共に四月上旬東京に滯在され中旬歸米す、加藤高子姉は度々同家に往來し懇切なる世話を受けし由なり。

○マントガモレー夫人（世界宗教大會繼續委員）は基督教主義女子大學設立の調査の爲東洋に來り四月東京にて數回の會議を開き種々協議する所あり

○男爵ド、ラブレー孃　有名なる白耳義の經濟學者ド、ラブレー先生の第二女なる同孃は女子禁酒會白耳義支部幹事なるが五月上旬來京の由。

讀者便り

○一羽の雀も徒には地に落さじ

東京　高添このの

私事十一年前に他界致し候姉の子が今年四月より高等女學校に入る樣相成り今迄母親の溫情知らで育ちし子の事なれば是非とも行末までも世話致し度と常に心掛居り候、聖書に一羽の雀も徒らには地に落ちじと御座候が今日此の頃姉の子の事に付きて今更ながら感じ申候目下出勤致し候學校に於て私が信者ならぬ敎師或は生徒に接する時又この小さき女兒の世話をなすに當りて主の御旨を行ひ得る樣御祈の末にだに覺えさせ給はらむ事を御願ひ申上候。

○春が參ります、花が咲きます

奈良　那須天留子

昨晚手紙が參りましたプール女學校に居る友から「御姉樣汚れた妹は直接に奉仕すべく尊き召をうけました己の言に從はんとし人の言に一度ならず二度までも迷ふて主の聖意を痛めました私は罪の子愚な子でしたけれど今はみやさしい主の聖意に此世のものはすべて葬つて御足あとに從ひまつります。何も惜しうはございません、悲しくはございません、此身ははかなく弱うございましてもたふるゝまで從ひませう、汚れたまゝに愚なまゝに主の御膝に參ります總てはエス樣が御存じでいらつしやいますから私はたゞ默して使命の終るまで肉體の朽ち果てるまでエス樣の爲に働きます」此友人は體の弱い爲どうして主の爲に盡さうかと思つて居りましたが此度彼は愈々決心致しまして聖使女學院に入學することになりました私はこの健氣な決心を本當に嬉しく思ひました、恵を感ずる事が深くても相當の才能があれば世の榮を得る爲に働からうとする人の多い中によく主の御聲に從ひましたしかも彼は非常に美術の天才を以て他人も己もその方の望を持つて居たのでございます、私は本當に自分が主エスから遠い〳〵汚れた者でありながら淋しい時悲しい時に何よりも先に主の御胸に寄りすがる事さへ出來ない事を悲しんで一段と主の御許に近くなり主の尊き御愛に滿され度いと思つて居ります處へ此の手紙をよみまして本當に勵まされました、春が參ります、花が咲きます、嬉しい色の復活の若葉の萠ゆる春に柔い東風の送るライフのいぶきに新しく聖き靈に滿されてみ畑の種を蒔かうと決心致しました。

○何事も支那式、食堂等も優長に候

香港　安田そよ

出發以來日々海上靜穩の爲何等苦痛もなく長崎上海を經て十八日當香港に參り午後二時無事着陸致し其後も幸に變りもなく暮し居候まゝ乍他事御休心願上候私の御世話申上候夫人は誠に氣輕にて三十四五歲と存じ候當地着以來は日々夜會等の招待にて殆んど留守勝にて夜分は大抵二時位ならでは歸館致されず候、只今滯在致し候當ホテルの建物は中々立派に候へども何事も支那式と見え食堂等の事も凡て優長に御座候市街は實に混雜致し恰も日本の暮の市場の如き感じ致し候然し通行人は大方は垢にまみれたる支那人にて是等の中に着飾りたる外國人の通行せる其兩階級の間あまりに隔り居り何となく氣の毒の感じ致し居り候夫人は今日は朝早くよりロシア號の招待にて出かけ私共は午後山上の公園に散步致す筈に候市中は何となく汚き感じ致し候此山上は實に絕景にてさすがに見物に參る價値ある處と存じ候、當地は只今(二

月二十二日）非常に暖かにて一昨日よりセルを着し居り猶汗を出し居候先日より再三何かとあれこれ申上度書き連らねをき候も淺様子不案内の爲延引致し候先は一寸無事着の御通知まであら〳〵申上候日本を離れてより漸く十有餘日に候へども一年も經し樣感じ居候。

○馬可傳講義を誠に嬉しく拜見致候

飛騨　須　永　善　子

御談を承る機會のなき山奥に於て先生方の有益なる御講話を拜讀致し魂の糧を味ふを得るは神の大なる御惠と深く感謝致し居り候且又皆々樣の容易ならざる御働き並にその御活動振を拜見致しては父の豐かなる御祝福の日毎に加はりて益々廣く深く發展せられん事を切に祈り申候。殊に先月號より御掲載下され候マクドナルド先生の馬可傳講義を誠に嬉しく拜見致し候。

○前日の日曜に洗禮志願式を受けられました

德島　池　田　照　子

先達は本部に參り御邪魔を致しまして本當に失禮で御座いました其時には色々御親切なる御言葉を頂きまして有難う御座いました御目に懸る事が出來ましたので誠に〳〵嬉しう御座いました、其時きかして頂きました蓄音器のミユージツクは今も耳の底に響いて居ります、御祈を願ひました師範の三人の姉妹が前の日曜に洗禮志願式を受けられました全く祈の結果で御座いました神は必らず信じて祈りました時答へて下さいます事を經驗致しまして實に嬉しう御座いました、熱心に校内で御働き下さいました久米樣は市内の學校に御奉職になることゝなりましたこれも神の惠と感謝致して居ります、ミス、マギーは一昨夜御着徳になりました、これから共に力を盡して働く積りで御座いますからどうぞ祈を以てお助け下さいまし。

○教會の爲に働きたき覺悟に御座候

大連　鵜　澤　節

「女子青年界」は何時も懐しさを以て拜讀致し居候、三好夫人とは時折會堂にて御目にかゝり御話致し候自分昨年五月二十八日横濱海岸教會牧師笹倉氏御渡連の砌洗禮相受け三好氏の教會に屬する信者の一人に有之候が何分時の不足と物質的缺乏の爲何等盡す處無き誠に他の信者方に恥かしき人間に候が來月よりはせめて身體で出來る事なら教會の爲に働きたき覺悟に御座候、東京も櫻咲く時となり加ふるに本年は博覧會にて定めて賑々しき事と存候當地もそろ〳〵暖かになりさうにて時々雪降り出で人々を驚かし居候河井先生には何日頃御着連に候や當地は中々油斷の出來ざる氣候にて自分參りし年は四月十八日に雪降り申候。

○聖い〳〵心になつた樣に思ひます

東京　佐　藤　昌　子

四月の五日教會で聖餐が御座いました、知つて犯した二重の罪知らずして致しました過が殘らず洗ひ潔められて聖い〳〵心になつた樣に思ひます、聖餐中は一生懸命に罪の赦しを願ひましたからそして今は重荷が下りた樣に安らかな氣になりました、これよりへりくだつた子になりませう何時も〳〵自分を反省してる積りですけれど、そして努力してる積りですけれども其結果が良くなつて表はれた事がありますかしら、そして眞に努力してるでせうかと思ひますと情けなく思ひま

す、私も神樣の小羊の一人ですもの永遠に見守つて下さいますでせうと思ひますと嬉し涙が出ます、私位の放蕩者がありませうかしら何時も神樣に對し申譯がないと思ふて居ります、何故思ふ通りに行ふ事が出來ぬのでせう本當に弱うございます「聖者」を讀んで自分の慢つてる事の爲恥づべき考へが明かになりました、何にも知らなかつた去年を懐かしくも思ひますが色々の困難を經て始めて聖い者になれるので御座いませう、だから多く困難が來てそれに打勝つ丈の力が與へられる樣に祈りませう今日は聖餐式があつたのですもの安かに思ふのも無理はありません。

○主となりて御働き下さる人が差向き入用

滋賀縣大津　馬屋原妙子

いつも〳〵私共、弱き信仰を助けられつゝ如何にかして當大津市に女子青年會の支部が出來ればと存じ居候今泉姉の御助力によりて組合教會の方にて青山女學院の出身の奥樣其方は其敎會の婦人會の會長をして居らるゝ方て御話下され又私からも色々女子青年會の方を紹介致し候處これも御贊成下され候、然し支部を設くるにしても主となりて御働き下さる人が差向き入用故何卒適當なる人々の與へらるゝ樣願居候、扨當地に支部を設くるにしても其支部の事業として如何なる事を致すが最も適當に御座候や、何卒具體的の事御知らせ下され度候今泉樣と私との考にては聖書の組を設け度候又講演會を開きて多くの婦人方に神樣を紹介致し度く存じ候が何卒如何にすればよきか御敎へ遊ばし下され度候私は當地に參り候てよりよき友達を與へられたる事を感謝致し居候、其の一人は奈良高師出の人にて眞面目な熱心な人に御座候。

○七里靴實に嬉しく拜見致し候

東京　村田淺惠

過日入會遊ばされし宮木由香子樣のこと何分宜敷く御願ひ申上候同姉は昨年の七月頃より私の「女子青年界」など御目にかけ居り候ひしが此程會の主意も御解り遊ばされ候て入會致し度しと申され候へば過日御願ひ申上候次第に御座候、いつも聖書の組に出席相かなひ候はゞといつも〳〵申居候へども未だ免されず候一日も早く出席免されむ事願ひ居候只弱き我等は強き熱誠なる諸姉の御導きによりて愈々もやされん事唯一つの願ひに御座候「女子青年界」は私にとりては大なる力に御座候都にありても敎會へも集りにも出席し難き私、時として殆ど力もなく消ゆる樣覺えられ候事もしば〳〵にて候ひきされども斯る時にも多くの力、望を與へられ候事度々有之候殊に二月號七里靴實に嬉しく拜見致し候同時に苦しく拜見致し候何れにしろ非常なるインスピレーションを與へられ候。

○矢張り申ませう五十圓ばかりです

札幌　横澤つぎ

一昨日は高倉先生の御子供樣の誕生日で私も招かれて參りました大變に可愛らしく成られました丁度昨年の昨今が偲ばれました御飯にうつる前に先づせん子樣の司會にて祈禱會の如きものあり私共も祈りましたが凡ての事を神を中心とせらるゝ事の美しいのに感じました北星女學校の方も來られました。聖書の組は此頃は試驗と卒業式の成績品にて忙しいので少しゝか參りません此前の如き十二人でした然しその子等が皆眞面目ですから實に嬉しく思ひました今は山上の說敎をやつ

て居ます毎朝々々良い子が出る樣に祈つて居ます身をキリストの爲に捧ぐるといふ人を出し度いと祈つて居ります一人でも多くの命を救ひ度いと思ふて居ます私には斯かる力は一つも無いのですが神が私の如き者をも使つて私を通して何か表はして下さると信じて居ます、去年一年間を省みますと一つとして成功してる事はありません學校の方にしても色々の失敗ばかりし舍といへば不足を來しました御金高は申しません澤山ですやはり申しませう五十圓計りですそれは薪をどの位買ふてよいのかわからず三十圓も多く買ひ入れたり大根も多過ぎたり又舍生の人數が少い處から起つたのです私は呑氣に買物して居ましたが今になり目が醒めました來らんとする一年間に於て全力を盡して返し且つ御金を殘したいと思つて居ます。舍の生徒は禮儀を守り善き事を自發的にやつて吳れますので感謝致します、私は一年間かゝつて漸く此處まで來たと喜んで居ります、尙々美しい舍にしたいと思ふて居ます、過去一年間は失敗の年即ち準備の年でした後の一年は少しでも成功の一年としたい積りで居ります。

○來月のをば待ち兼ね居り候

東京　半田愛子

「女子青年界」毎月御贈り下され只今にては一日にて讀み終り來月のをば待ち兼ね居り候次第に御座候誌上拜見致し候へば河井先生には今度傳道の爲め朝鮮に御出で遊ばされし由神樣の御助により御盛なりし御事と感謝申上候私事も先學期中はとかく氣分も劣り勝ちにて聖書の組へも出席致さず候ひしが御かげ樣にて餘程良く相成り申候故參上致す存念に御座候處父も弟を失ひしこの方餘りの失望にてこの節は身體をそこなひ私も非常に心配致し居候及ばずとも聖書の事ども引き候ひて慰め居候。

○すべては矢張御旨にある事と存じます

水戸　竹尾惠子

父の病も神の御惠にて全快致しましたどうぞ御安心下さいまし長い間の大病故大分身體も弱つて居りますが此頃はもう家内の中は自由に起居致しますし天氣のよい暖かい日にはそろ／＼と外へも出られる樣にまでなりました全く神の御惠による事と感謝して居ります、今度歸省いたしましても母と共につく／＼話しました血氣盛んな常に丈夫な弟が病に倒れたのも常に弱いそして老いた父があれ程の大病を推通ほして全快するやうになりましたのも總てはやはり御旨にあることゝ思ひますと人間の弱い／＼力を頼んで色々の事をしやうとする愚さを心から感じます、新學年になりましてから學校は大分教師も變り新しい人が多くなりまして寄宿舍なども新らしい方が舍監となられたので色々と仕事が片附きませんで日々ごた／＼と忙しく暮して居ります、それに又色々面倒な事も御座いまして思はぬ事に思はぬ誤解など招く事もありまた時には情ないとも思ひますがよく考へて見れば全く自分の足りないからでよい修養と喜んで居ります人からは何と申されましてもたゞ一生懸命努力するつもりで居ります、本年は當地女子師範へ私の同級生が一人教師として參りました二年ぶりで逢ひまして嬉しく御座いますその人はまだ信者ではありませんが前から教會へは行つて居たさうでこれからも大川さんと出來る丈御さそひし度いと思つて居ります、この人の爲に御祈り下さいまし、當地はもう櫻も過ぎて今は雪の樣に散つて居ります一日々々とお暖かになつて參りますがまた時々びつくりする樣なお寒い日もある樣で御座います。

○蛙の樣に跳たり、鳥の樣に飛んだり

信州上田　上野梅香

卒業の種々の事は知らずたゞ樂しい思ひに滿ちた氣分で舍といふものを離れて當地上田に參りました當保姆傳習所は生徒は少しで御座いますが皆ミッションスクールを出た人等で御座いますから大變に信仰もよく人もよろしう御座います、私の仕事はミス、パードに午前中は日本語を敎へ月火水は午後フレベルの敎科書を敎室で通譯致すので御座います太變に興味が御座いまして私は大變に面白く勉强致して、居りますそして午後に日本語も敎へます、今度東京靑年會の事業として設立される貧民幼稚園主任の方は此上田の此所からいらした方なんで御座います、當所でも毎週金曜日の午後は傳習所の生徒も先生も皆で遊戯や何かお稽古を致しますが私も來週から一所に習ふ積りで居ります、そして兩手を上に上げたまゝ歩いたり蛙の樣にはれたり鳥の樣に飛んだり一週間に一度づゝ幼稚園の子供になります。それから日曜學校は一週間に二ケ所敎へますそして聖書も通學生に敎へます未信者で御座います何か良い參考書を御敎へ下さいませんか使徒行傳を敎へろとの事で御座います此校内に御住居で傳道に從事していらつしやいます島田さと子樣は「女子靑年界」を讀んで居らつしやいまして大變に加藤さんやお百合さんに興味を持つていらつしやいます私は加藤さんといふ方に會つて見たいと思ひますと申して居られます、そして昨日も上野さん又「女子靑年界」が來て居ります、そしてれ加藤さんの誕生日の事が書いてありますと大變此方は愉快な方で御座いますと申されました、私はまだ馴れませんので皆樣御親切ですが淋しく感じます昨年の今頃の橫澤さんがよく察しられますそれで今手紙を書きました、でも決してつぶやきません感謝致して居ります私の樣なものでも何か御用になると見えて此所に御送り下さいましたから、神に從順なそして神の與へ給ふ總てに何時も喜で居りたいと考へて居ります、當地は自然の景色が誠によろしう御座います若しもつと云へば此山此流が我が歷史を語つてくれるものでもつと思出のあるものだつたらと思ひます。

○表面ばかり塗換られてもだめでせう

水戸　大川喜代子

福音新報により朝鮮傳道も大變に好結果の由を知り本當に感謝に堪へぬ次第に存じます、先生方が御壯健で益々御國の建設の爲に御盡し下さる事を考へますと本當に嬉しく同時に自分の弱力を感じます、私も三月上旬にお惠さんと二人で先の家より少し廣い家を貸りまして引移りました先の家よりは餘り離れて居りませんが通りでなく少し引込んで居りますから靜かでよろしう御座います、「女子靑年界」毎號誠に面白く樂しみに致して拜見致して居ります本當に自分でも知らず〳〵の内に自分の信仰なり行爲なりが信者としてもう一層の强さと注意とを要する樣になつては居らぬかまた復活を常に要するのではないかと本當に此頃は自分が何だか種々の事から自分が漸時に下に〳〵と落ちて行く樣な氣がして情なくなります、僅かあのなつかしい學校を去つてより二年隨分種々の出來事にも出逢ひました悲しい事にも出あひましたが本當に一番つらい事は自分の信じて居る者に反抗された時だといふ事を此頃に感じます、本當にエス樣がユダの手に依つて渡され給ふに至るまでの間の御心持はどんなであつたであらふと深くそれが偲ばれます私は本當に注意の足りない人間とても他の方の樣に目先のき

く行爲は出來ぬ人間ですけれども世間がそれでは通してくれませせん本當に人を疑つてかゝるなどいふ事はいやで御座います私は生徒に失敗があつて調べればならぬ場合でも心にいつでも思ひます。人は疑つても其人を傷ふより人を信じてそれで自分が欺かれるなら馬鹿になつてもよい信じて馬鹿にされようと思つて居りますけれどもこれとても矢張り目がなければ駄目で御座います、自分の周圍を疑つてかゝられれば世は渡れぬものかと考へると單純に過して來た學生々活がなつかしく思はれます、それと同時にかゝる周圍の空氣の中に置かれて居る中には始めは嫌いだと思つた香も鼻につけば何でもなくなる樣に自然に自分が退歩すると思ふといつそ此地から逃れ度なりますけれども又一方にてはどうしてもあんなに自分の樣な足らぬ缺點だらけの者でもなついてくれる生徒を捨てゝ行かれませせん自分の受持の生徒が卒業するまでどうしても居やうと思つて居ります隨分教育者など威嚴がない者だと此頃は悲觀しました、私は幾分かでも眞面目に盡し度く思ひ今ではもう教室に居る間が何より樂しみ生徒のにこ〳〵した顏を見る間丈が愉快です、どうか何時までも厭な味を感ずる樣に鋭く良心がありたいと願ふて居ります、奇麗な精神的世界を先生方の御蔭樣で見せて頂いて來た私は自分の前に廣げられた醜い實世間に對して涙ぐまれずには居られませせん、此樣な世間に對して無頓着になるのが經驗を得るといふのならもう自分は何時までも無經驗者で通り度いと願ふて居ります、表面計り塗りかへられても駄目でせう内容の充實した學校が日本全國に起る樣に祈りませう、某親友は某學校の改善を計つて居ります、何か改革する時にはきつと犧牲になる人がなければ出來ぬ事だから自分は犧牲になつて改革すると申して居ります。今日曜學校の教科書を讀んで居りましたら「弱き者十字架を負ふ時に決して彼等の價値如何に心を惱ます勿れ意氣地なき者つまらぬものなればこそ我等の助が必要なれ」とありました本當に私共がこんな心掛で十字架を負はねばなりませせん、良い言葉を見付けました。

○日本人といふものが解つて貰ひ度務居候

桑港領事夫人　沼野すゞ子

扨て此度は何から申上てよろしきか隨分御無沙汰申上候家内は皆無事に居り候去年十二月二日に家族の一員を相增し壽美枝と命名致し候二十にも相成り候はゞ選擧權を得らるゝ子に御座候、小さき兄はしきりと御兄樣振居り候て自分の好む汽車の本や犬のおもちやを赤坊の目の前にさしつけあぶなくて困り居候信惠も相變らず色々よく致しくれ大に助かり居り候皆よく致しくれ候まゝ昨今私も外出致し候に何も〳〵委せて安心致し出歩き居り候、追々友達も知人も出來候に從ひました桑港も捨がたく相成り候それに時候は春のやうにて一月より躑躅やぼけの花盛りもう直き又苺の出る頃に候これにて排日さへなくば一生居ても好い處に候但し主人には氣の毒な程忙しき處に御座候私も出來るだけ當地の人と仲好く致し日本人といふものがよく解つて貰ひ度ものと及ばず乍ら務め居候、嬉しい事には安孫子夫人も居られ私も色々うかゞはれて何よりも有難き事と存じ居候、殊に安孫子樣の泰雄樣と私共の洋一とは同年の良いお友達にて時々子供の守を致しながら親同士御話致しつゝ過す事も御座候私も當年からは何處にでも參らるゝ樣に相成候まゝ務めて自分の都合は考へず何處にでも出る樣に致し居候此國等にては有力者の夫人と親しくなると申す事が中々必要の事と存ぜられ候言葉は出來候はずともせめては意志の疎通なりと出來候はゞ

と存居候當地の女子青年會も色々計畫有之安孫子夫人など非常の御骨折にて私共も及ばずながら色々御相談にも與り居候主人も私も會員に相成り居候誠に致す仕事は多く候へども何に致せ中々人と物質力を要する事とて急な事は總て成功するわけには參らず候へども追々とやつて參る覺悟に御座候。

當地にてミス、ペレーにいつも何かの折御目に懸り居候七八年前あの敎室でフエーマスストーリの讀方を敎へ頂き候方にこんな處で又御一緒になると申すのも不思議な御緣と存じ居候お正月には東京青年會のミス、マクドナルドよりわざ〳〵美しきカレンダー御送り下され大變ありがたく喜び居り候。

○會友申込（本部報告）

守永すゞ　牧野りう　鐙谷夫人　井野靜子
岡本翠　高折加那於　馬原やす　宮島まさえ
池田しげ子　國分みね子　和田周子　吉松靜子
京野きん子　白上近子　四宮みき子　鈴木すゞ子
伊藤ちせ子　齋藤たま子　丹羽きよ子　三宅きみ子
佐藤かつ子　疋田たつ子　坂出夫人　橋本いく代
高水はつ子　若松りち子　武田光子　神宮茂子
岩田つや子　堀部國枝子　鈴木秀子　秋元美代子
渡邊しづよ　筒井たき子　岩崎高子　八太かみ子
中村つね子　中岡りづ子　田中靜枝　仲あさよ子
宮川みきゑ　田中里子　小野貞世子　藤澤とら子
中村とよ子　木下こま子　神代小美子　柴田貞子
小山英子　寺尾たま子　北原延子　藏田咲子

○横濱女子青年會入會

宇田さだ子　大久保夫人　横田つる子　吳實芝

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓宛　守永すゞ　牧野りう　鐙谷夫人
井野靜子　岡本翠　高折加那於
馬原やす　宮島まさえ　河井道子
岩崎春代　藤井久子

金貳圓　田口みつ

○横濱女子青年會へ寄附

金壹圓　牧野としゑ

○雑誌「女子青年界」代金領收

金七拾錢宛　荒井園生　林きのえ　本多かず
鵜澤節　志立屋な　須永ぜん　芝みつの
伊藤とも　宮地芳子　櫻内曉香　井深花子
フエリス青年會　金川　谷口とく　島村夫人
春日さく

金壹圓四拾錢　山川巖子
金九拾錢　高井まさの
金七拾五錢　阿由葉郁子
金七拾五錢　石井光子
金四拾二錢　鎌田まい
金五圓　沼野すゞ
金壹圓貳拾四錢　三浦盛世
金壹圓四拾錢　岡山花
金壹圓貳拾六錢　松岡鎭枝

National Committee

Headquarters. 12Tamachi Sanchome, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasure
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss Chiyo Yamada	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. E. W. Clement	Miss Susan Searle, Kobe

Secretaries

Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret Matthew, on Furlough
Miss G. R. Watney, Acting General, Tokyo
Miss Mary Page, Acting Associate, Tokyo
Miss Hisa Kuno General, Yokohama

部數	定價(郵共)	海外
一部	金七錢	金十一錢
一年分	金七拾錢	金壹圓廿四錢

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

大正三年四月廿八日印刷納本
大正三年五月一日發行

發行所 東京市牛込區田町三丁目十二番地 日本基督教女子青年會
編輯兼發行人 東京市牛込區田町三丁目十二番地 河井道子
印刷人 東京市芝區櫻田和泉町七番地 鈴木吉次郎
印刷所 東京市芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

大正三年四月廿八日印刷納本　大正三年五月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可